

科目名	関係法規・制度			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師法などの美容師の業務に関する衛生法規や制度、消費者の保護法規や制度、また、公衆衛生を担う美容師の社会責務、職業倫理について勉強する。							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験(関係法規・制度)合格レベルの知識習得 2. 美容師の社会責任・職業倫理への理解 3. 美容師制度に関する法的規制、制度の理解 4. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	関連法規・制度 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容				備考
第1回	法制度の概要			社会生活における法の役割を理解し、法の種類、特にわが国における法の体系を学ぶ。				
第2回	衛生法規の概要と法と行政の関係			衛生行政の目的を完遂するための法規および、国と地方が行なう行政の関係を学ぶ。				
第3回	衛生行政の意義と歴史			社会公共の立場から公衆の健康の保持と増進を公衆衛生の向上を図るために、衛生法規に基づいておこなう行政の歴史を振り返り、その意義を理解する。				
第4回	衛生行政の種類と衛生行政機関			衛生行政の種類としくみ、それらを所管する機構と役割について述べる。				
第5回	美容師法の目的と歴史			美容業を衛生面から規制し、公衆衛生の維持と増進を図る美容師法の目的を述べ、その歴史を振り返る。				
第6回	美容師法の体系用語の定義			美容師法の内容について概観。その構成、運用に当たる行政機関、および美容師法の内容を理解するための用語について学習する。特に、美容、美容師、美容所の違いについて。				
第7回	美容師 (1)			美容師の資格制度を理解する。美容師の養成、試験、免許の仕組み、等について説明する。				
第8回	美容師 (2)			美容師の免許と登録について説明する。				
第9回	美容師 (3)			美容師が業務活動を行なうときに守らねばならない義務について説明する。				
第10回	美容所 (1)			美容所開設の届出、施設の検査確認、美容所が講ずべき措置等の規制について説明する。				
第11回	美容所 (2)			美容所以外での業務について説明する。				
第12回	違反者に対する行政処分および罰則			美容師法の規定に違反する状態が生じたときに行なわれる、美容師および美容所に対する処分および罰則について説明する。				
第13回	美容師会および美容師法の復習			美容師会および美容師法の復習				
第14回	関連法規 (1)			将来、美容師になりまた美容所を経営する場合に知っておくことが望ましい法律について説明する。				
第15回	関連法規 (2) および 美容師試験			同上 (つづき) および 美容師試験対策。				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

2025年度シラバス

科目名 ¹		衛生管理Ⅰ		学科名 ² (コース名)				学年		3. 1学年	
授業形態 ⁴		講義		学期		後期		開講年月 ⁵		10月	
教育課程区分 ⁷		必修		単位数 ⁸		3		時間数 ⁹		30	
								該当資格区分 ⁶			
								該当資格名称 ¹⁰			
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		11. 公衆衛生の意義、予防衛生、保健衛生、環境衛生、特に美容業務上で必要不可欠な衛生知識などについてテキストに沿って教授すると共に、その時点における社会の動きなどについても教授する。									
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		12. 美容師国家試験合格レベルの知識習得。美容師の社会責任、職業倫理への理解。									
受講条件		13. 出席率80%以上が前提となる									
教科書名		14. 衛生管理 日本理容美容教育センター						教材名		15.	
設備名・機器名		16.						関連サイト		17.	
関連前科目		18.						関連後科目		19.	
20. 授業計画(授業コマ単位) 学科: 15コマ以上目単位、実習・演習: 30コマ以上/単位											
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)				各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		公衆衛生の概要				公衆衛生の意義を学び、我が国の公衆衛生を知る。					
第2回		公衆衛生の具体的な課題と領域				公衆衛生を知り、出生率、死亡率、乳児死亡率、平均寿命。確認テスト。					
第3回		美容師と公衆衛生				歴史にみる理容美容と公衆衛生。保健所の役割を知る。確認テスト。					
第4回		予防医学と保健				予防医学の目的と意義を知る。母子保健と統計について学ぶ。確認テスト。					
第5回		母子保健				母子保健と統計について学ぶ。					
第6回		成人、高齢者保険				栄養素とそのはたらきを知る。現代の食生活の問題点を考える。					
第7回		医療介護の制度				日本の医療、保険制度について理解する。確認テスト。					
第8回		環境衛生を学習する目的				環境の自然や人々の健康に及ぼす影響を知る。					
第9回		環境衛生				家庭、学校、事業所、営業施設、公共団体による公衆衛生。					
第10回		空気、水、日光				空気、温度、湿度、気流、水と健康。					
第11回		日光と健康				日光の種類を知り衣食住の役割を理解する。食中毒について考える。					
第12回		住居の衛生				採光、照明、換気の役割を知る。上下水道と廃棄物を理解する。確認テスト。					
第13回		衛生害虫とネズミ				衛生害虫の被害や駆除の方法を知る。公害についての理解を深める。					
第14回		美容所の環境衛生				不特定多数が入り出る環境を知り、管理能力を高める。					
第15回		実習室の衛生状態を確認				温度、湿度、換気、照明、器具類の管理。					
第 回											
21. 成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) … 「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。											
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加点式or減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。											
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解		思考・判断		関心・意欲		態度		技能・表現	
①成績判定試験		1位		2位						70	
②確認テスト		1位		2位				3位		30	
③課題レポート											
④授業態度											
⑤作品											
⑥プレゼンテーション											
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。										不合格の場合	
										補修、追試の有無等	
シラバス作成者		山本佐智子		シラバス承認者				授業担当教員		山本佐智子	
								実務経験紹介			
更新履歴											
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所				作成者		Checker(確認者)	
改1											

2025年度シラバス

科目名 ¹	衛生管理Ⅱ		学科名 (コース名) ²				学年	³ 2学年
授業形態 ⁴	講義	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶		
教育課程区分 ⁷	必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	¹¹ 美容師になる上で必要な感染症の知識を学習する。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	¹² 美容師国家試験合格レベルの知識習得。美容師の社会責任、職業倫理への理解。							
受講条件	¹³ 出席率80%以上が前提となる							
教科書名	¹⁴				教材名	¹⁵		
設備名・機器名	¹⁶				関連サイト	¹⁷		
関連前科目	¹⁸				関連後科目	¹⁹		
²⁰ 授業計画(授業コマ単位) 学科:15コマ以上目単位、実習・演習:30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		感染症を学習する目的	客、従業員を通しての感染症伝播の危険性を知る。					
第2回		感染症の種類	感染症の3つの分類を知り、感染症の種類を覚える。					
第3回		病原微生物	病原微生物の種類と形と大きさと構造を知る。					
第4回		微生物の増殖と環境の影響	細菌の増殖と環境の影響を理解する。					
第5回		感染症の予防	微生物の病原性と汚染、感染及び発病について学ぶ。					
第6回		常在細菌叢	人体の常在細菌叢を知る。					
第7回		免疫と予防接種	先天免疫、後天免疫、予防接種、ワクチンを知る。					
第8回		感染症発生の要因	感染源、感染経路、宿主の感受性。感染症の3大要因。					
第9回		感染症予防の3原則	感染源、感染経路、宿主の感受性に対する対策。					
第10回		感染症の予防 まとめ	汚染、感染、発病を理解させる。免疫と予防接種を学ぶ。					
第11回		感染症の概要	理容、美容と感染症。一類感染症を知る。					
第12回		二類感染症、三類感染症	二類感染症、三類感染症を知る。病原体、感染源、感染経路。					
第13回		四類感染症、五類感染症	四類感染症、五類感染症を知る。病原体、感染源、感染経路。					
第14回		新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ、予防接種法で規定されている感染症。					
第15回		感染症の概要 まとめ	感染症の病名、種別、病原体、性格を復習する。					
²¹ 成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法)…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。								
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加点式or減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験		1位	2位				100	秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点 可(D):69点~60点 不可(E):59点以下
②確認テスト								
③課題レポート								
④授業態度								
⑤作品								
⑥プレゼンテーション								
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等
シラバス作成者 山本佐智子		シラバス承認者			授業担当教員	山本佐智子		
					実務経験紹介			
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所			作成者	Check者(確認者)	
改1								
改2								
改3								
改4								
改5								

2025年度シラバス

科目名 ¹		衛生管理Ⅲ		学科名 (コース名) ²		学年		3.	
授業形態 ⁴		講義	学期	後期	開講年月 ⁵	10月	該当資格区分 ⁶		
教育課程区分 ⁷ 分		必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		11. 消毒法を知り、理学的消毒法、化学的消毒法の特徴を学ぶ。消毒薬の種類と濃度計算式を理解する。清潔保持と清掃の意義を知る。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		12. 美容師国家試験合格レベルの知識習得。美容師の社会責任、職業倫理への理解。							
受講条件		13. 出席率80%以上が前提となる							
教科書名		14. 衛生管理 日本理容美容教育センター				教材名		15.	
設備名・機器名		16.				関連サイト		17.	
関連前科目		18.				関連後科目		19.	
20. 授業計画(授業コマ単位) 学科: 15コマ以上目単位、実習・演習: 30コマ以上/単位									
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		消毒とは		消毒法の歴史					
第2回		病原微生物と非病原微生物		病原微生物の種類と構造・消毒の原理					
第3回		消毒の意義①		汚染・感染・発病と消毒の意義					
第4回		消毒の意義②		消毒・滅菌・殺菌・防腐の定義					
第5回		美容の業務と消毒との関係		消毒に関連のある法の規定					
第6回		消毒を怠った場合の危険と責任		美容所で起こりえる感染例・消毒の重要性					
第7回		消毒法と適用上の注意		消毒法の種類・病原微生物の抵抗力					
第8回		消毒法各論・理学的消毒法		紫外線消毒・煮沸消毒・蒸気消毒					
第9回		化学的消毒法		アルコール類の消毒・次亜塩素酸ナトリウム・界面活性剤・逆性石鹼					
第10回		すぐれた消毒法と実施上の注意		消毒法の条件、注意事項					
第11回		消毒法実習		各種消毒薬・消毒薬と希釈液の濃度					
第12回		消毒薬希釈法		各種消毒薬希釈の手順					
第13回		美容所の消毒の実際		消毒設備・器具の消毒法・消毒の現状					
第14回		美容所の消毒法の実際		洗剤による清浄法・衛生昆虫の駆除					
第15回		衛生管理技術のまとめ		消毒法と特徴・器具、布片の消毒法・希釈法					
21. 成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) … 「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。									
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加減点式or減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。									
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①成績判定試験		1位	2位				100	秀(S): 100点~90点	
②確認テスト								優(A): 89点~80点	
③課題レポート								良(B): 79点~70点	
④授業態度								可(D): 69点~60点	
⑤作品								不可(E): 59点以下	
⑥プレゼンテーション									
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等	
シラバス作成者		山本佐智子	シラバス承認者		授業担当教員	山本佐智子			
					実務経験紹介				
更新履歴									
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Check者(確認者)	
改1									
改2									
改3									
改4									
改5									

2025年度シラバス

科目名 ¹		保健Ⅰ（人体の構造および機能）		学科名 ² （コース名）				学年	³ 学年
授業形態 ⁴		講義	学期	後期	開講年月 ⁵	10月	該当資格区分 ⁶		
教育課程区分 ⁷		必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）		1年半、計35回（70時間）のうち前半（人体の構造および機能）である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。							
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）		1. 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 頭、顔を中心とする人間の美に関わる美容師に必要な解剖学、生理学の基本知識の習得 3. とくに、皮膚や毛髪に関する深い知識 4. 人間性の醸成							
受講条件		出席率80%以上が前提となる							
教科書名		保健 日本理容美容教育センター				教材名			
設備名・機器名						関連サイト			
関連前科目						関連後科目			
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位 20.									
回（コマ）	開講日	授業コマの主題（タイトル）		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		「理容・美容保健」と 理容師・美容師		人体各部の名称/頭部、顔部、頸部の体表解剖学（1）					
第2回				頭部、顔部、頸部の体表解剖学（2）小テスト					
第3回		骨角器系		骨の種類と構造/骨の連結					
第4回				骨格器系とそのはたらき/骨の保健、					
第5回				総合学習、小テスト					
第6回				筋の種類と特徴/主な骨格筋とそのはたらき（1）					
第7回		筋系		表情筋と表情運動					
第8回				総合学習、小テスト					
第9回				神経系の成り立ち/中枢神経とその働き					
第10回				末梢神経とその働き/神経系の保健、総合学習、小テスト					
第11回		神経系		総合学習、小テスト					
第12回				視覚、聴覚、平衡感覚					
第13回				味覚、嗅覚、皮膚感覚、総合学習、小テスト					
第14回				第1章体表解剖学、第2章骨角器系、第3章筋系 総復習					
第15回		総合学習		第4章神経系、第5章感覚器系、総復習					
成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。 21.									
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分（加減点式or減点式）・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。									
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①成績判定試験		1位	2位				70	秀（S）：100点～90点	
②確認テスト		1位	2位		3位		30	優（A）：89点～80点	
③課題レポート								良（B）：79点～70点	
④授業態度								可（D）：69点～60点	
⑤作品								不可（E）：59点以下	
⑥プレゼンテーション									
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等	
シラバス作成者		山本佐智子		シラバス承認者			授業担当教員	山本佐智子	
							実務経験紹介		
更新履歴									
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Check者（確認者）	
改1									
改2									
改3									
改4									
改5									

2025年度シラバス

科目名 ¹		保健Ⅱ（人体の構造および機能）		学科名 ² （コース名）				学年	2学年
授業形態 ⁴		講義	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶		
教育課程区分 ⁷ 分		必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）		1年半、計35回（70時間）のうち前半（人体の構造および機能）である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。							
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）		1. 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 頭、顔を中心とする人間の美に関わる保健衛生分野の職業である美容師に必要な人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の基本的な知識の習得 3. 人間性の醸成							
受講条件		出席率80%以上が前提となる							
教科書名		保健 日本理容美容教育センター				教材名 ¹⁵			
設備名・機器名						関連サイト ¹⁷			
関連前科目						関連後科目 ¹⁹			
授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位 ²⁰									
回（コマ）	開講日	授業コマの主題（タイトル）		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		血液・循環器系		血液のあらまし、血球、血液循環の仕組み					
第2回	血液循環の仕組み（大循環、小循環、門脈循環） 心臓と血管、リンパ管系								
第3回	心臓と血管、血圧、リンパ管系								
第4回	総合学習、小テスト								
第5回		呼吸器系		呼吸器系のあらまし、気道/肺の仕組み					
第6回	呼吸運動/呼吸器系の保健、総合学習、小テスト								
第7回		消化器系		消化器系のあらまし、消化管の仕組み					
第8回	消化管・消化腺のはたらき								
第9回	消化器系の保健、総合学習、小テスト								
第10回		総合学習		第6章血液と免疫系 第7章循環器系 第8章呼吸器系 第9章消化器系					
第11回		皮膚と皮膚付属機関の構造		皮膚の表面、皮膚の断面 表皮の細胞					
第12回	毛の構造 毛の型と毛の成長周期								
第13回	毛の型の変化、毛の成長 毛の性状、								
第14回	立毛筋、脂腺、汗腺、爪、総合学習、小テスト								
第15回		総合学習		第1章皮膚の構造、第2章皮膚付属器官の構造					
成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。 ²¹									
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分（加点式or減点式）・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。									
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①成績判定試験		1位	2位				100	秀（S）：100点～90点	
②確認テスト								優（A）：89点～80点	
③課題レポート								良（B）：79点～70点	
④授業態度								可（D）：69点～60点	
⑤作品								不可（E）：59点以下	
⑥プレゼンテーション									
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等	
シラバス作成者		山本佐智子	シラバス承認者		授業担当教員	山本佐智子			
					実務経験紹介				
更新履歴									
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Check者（確認者）	
改1									
改2									
改3									

2025年度シラバス

科目名 ¹	保健Ⅲ			学科名 ² (コース名)				学年	³ 2学年
授業形態 ⁴	講義		学期	後期	開講年月 ⁵	10月	該当資格区分 ⁶		
教育課程区分 ⁷ 分	必修		単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		11 1年半、計35回(70時間)のうち前半(人体の構造および機能)である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		12 1. 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 頭、顔を中心とする人間の美に関わる保健衛生分野の職業である美容師に必要な人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基本的な知識の習得 3. 人間性の醸成							
受講条件		13 出席率80%以上が前提となる							
教科書名		14 保健 日本理容美容教育センター				教材名	15		
設備名・機器名		16				関連サイト	17		
関連前科目		18				関連後科目	19		
20. 授業計画(授業コマ単位) 学科:15コマ以上目単位、実習・演習:30コマ以上/単位									
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		皮膚の循環系と神経系		皮膚の血管、皮膚のリンパ管					
第2回		皮膚と皮膚付属器官の生理機能		皮膚の神経、総合学習、小テスト					
第3回	対外保護作用・体温調節作用								
第4回	知覚作用・皮膚反射・分泌排泄作用・呼吸作用								
第5回	吸収作用・免疫・毛・爪のはたらき								
第6回		皮膚と皮膚付属器官の保健		総合学習、小テスト					
第7回	皮膚と全身状態・皮膚と精神・栄養・嗜好品								
第8回	皮膚と体内病変・皮膚の水分と脂の状態								
第9回	皮膚・付属器官とホルモン								
第10回		皮膚と皮膚付属器官の疾患		皮膚・毛・爪の保護と手入れ、総合学習、小テスト					
第11回	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因と治療法								
第12回	皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹その他の皮膚疾患								
第13回	尋常性ざ瘡・化膿菌・真菌。ウイルス・衛生害虫								
第14回		総合学習		毛と爪の疾患、総合学習、小テスト					
第15回	第3章皮膚の循環器系と神経系、第4章皮膚と皮膚付属器官の生理機能、皮膚と皮膚付属器官の保健、皮膚と皮膚付属器官の疾患								
第 回									
21. 成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) …「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。									
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加減点式or減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。									
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①成績判定試験		1位	2位				100	秀(S):100点~90点	
②確認テスト								優(A):89点~80点	
③課題レポート								良(B):79点~70点	
④授業態度								可(D):69点~60点	
⑤作品								不可(E):59点以下	
⑥プレゼンテーション									
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等	
シラバス作成者	山本佐智子		シラバス承認者			授業担当教員	山本佐智子		
						実務経験紹介			
更新履歴									
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Checker(確認者)	
改1									
改2									
改3									
改4									
改5									

科目名	化粧品化学Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実学としての化粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「関係法規・制度」、「衛生管理」、「理容・美容保健」など、他教科との関連性についても適宜述べる。							
授業の一般目標	1 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 人の生体の成分に化学変化を与える化粧品の基本知識の習得し、その危険性について認識する。 3. 化粧品化学の知識・理解を深め美容の専門家への道を拓く。 4. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	化粧品化学 日本理容美容センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	1 物質の構造	物質の構成成分（混合物・純物質・単体・化合物）について復習する						
第2回		原子の構造・電子配置・イオンについて復習する						
第3回		イオン結合と組成式・イオンからなる物質を学ぶ						
第4回		共有結合と分子構造・分子からなる物質・水素結合・無極性物質・極性物質について学ぶ						
第5回		原子量・分子量についての確認・物理変化と化学変化の違い・化学反応式・化学反応の速さについて学ぶ						
第6回	2 溶液とコロイド	溶液と溶解の仕組み・溶解度と濃度について学ぶ。						
第7回		コロイドの定義と種類・ミセルとエマルジョンについて学ぶ						
第8回	3 酸と塩基と塩	酸と塩基の性質・水素イオン指数について学ぶ						
第9回		中和反応と塩・緩衝作用と緩衝液について学ぶ						
第10回	4 酸化還元反応	酸化と還元の定義と酸化還元反応と化粧品について学ぶ						
第11回	5 有機化合物)	鎖式炭化水素・環式炭化水素・官能基（ヒドロキシル基・カルボニル基・アルデヒド基・カルボキシル基）について学ぶ						
第12回	(低分子化合物)	アミノ基・官能基どうしが結合した炭化水素（エステル・油脂）・エステル化・けん化について学ぶ						
第13回	(高分子化合物)	天然高分子化合物（多糖類・デンプン・セルロース）について学ぶ						
第14回		天然高分子化合物（たんぱく質）・合成高分子化合物について学ぶ						
第15回	化学分野のまとめ		国試筆記化学分野の出題傾向と対策問題練習					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

2025年度シラバス

科目名 ¹		化粧品化学Ⅱ		学科名 ² (コース名)		美容科(昼間)		学年	2学年
授業形態 ⁴		講義	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	国家資格	
教育課程区分 ⁷		必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		11 化粧品の機能性、作用機序、応用的な製品設計や最新トピックについて科学的の理解を深めるとともに、サロン現場や商品選定に役立つ専門的知識を身につける							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		12 各種化粧品の処方と化学的な背景を理解できる 成分の作用メカニズムを説明できる 機能性化粧品や新規素材の安全性・有効性を評価できる							
受講条件		13 化粧品化学Ⅰを履修していること							
教科書名		14 化粧品化学				教材名		15	
設備名・機器名		16				関連サイト		17	
関連前科目		18 美容技術理論Ⅰ				関連後科目		19 国家試験筆記対策	
20 授業計画(授業コマ単位) 学科: 15コマ以上目単位、実習・演習: 30コマ以上/単位									
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		ガイダンス/化粧品化学Ⅰの復習		成分分類・界面活性剤・香料など					
第2回		皮膚のバリア機能と化粧品の浸透		角層、経皮吸収、キャリア成分					
第3回		美白成分の化学と作用機構		アルブチン、ビタミンC誘導体、トラネキサム酸など					
第4回		抗老化成分とアンチエイジング化粧品		レチノール、ペプチド、ナイアシンアミドなど					
第5回		ニキビ・炎症ケアと皮脂制御成分		サリチル酸、イオウ、グリチルリチン酸					
第6回		オーガニック・ナチュラル化粧品の科学		天然成分、エビデンス、安全性					
第7回		毛髪構造と機能性ヘアケア成分		補修成分(CMC、PPT) ヒートプロテイン					
第8回		パーマ、カラー施術と化学反応(応用)		ブリーチ、中間処理剤、ダメージ抑制技術					
第9回		化粧品のテクスチャーと使用感設計		ゲル、クリーム、エマルジョン、使用感と成分設計					
第10回		新素材・バイオテクノロジー成分		リボソーム、幹細胞培養液、ナノ化技術					
第11回		化粧品と皮膚トラブル・アレルギー		接触皮膚炎、感作性試験、安全性試験					
第12回		化粧品の製造と品質管理		GMP、品質保証、安全性試験、安定性試験					
第13回		化粧品の表示と消費者対応		クレーム対応、成分表示の解釈、PL法					
第14回		実製品の成分解析ワーク(グループワーク)		市販品を分析し、プレゼン準備					
第15回		プレゼンテーション/総まとめ・確認テスト		成分説明プレゼン、期末テスト実施					
第 回									
21 成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) … 「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。 当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加点式or減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。									
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①成績判定試験								秀(S): 100点~90点	
②確認テスト								優(A): 89点~80点	
③課題レポート								良(B): 79点~70点	
④授業態度								可(D): 69点~60点	
⑤作品								不可(E): 59点以下	
⑥プレゼンテーション									
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等	
シラバス作成者		小林 昌子	シラバス承認者		授業担当教員				
					実務経験紹介				
更新履歴									
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Check者(確認者)	
改1									

2025年度シラバス

科目名 ¹		美容文化論		学科名 ² (コース名)		美容科		学年		3学年							
授業形態 ⁴		講義		学期		前期		開講年月 ⁵		4月		該当資格区分 ⁶		国家資格			
教育課程区分 ⁷		必修		単位数 ⁸		1		時間数 ⁹		30		該当資格名称 ¹⁰					
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		11美容文化論は、美容がどのように人々の暮らしや社会、歴史と関わってきたのかを多角的に学ぶことで、美の意味や役割を深く理解し、現代の美容に対する感性と教養を養う事を目的としている。															
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		12美容の歴史的背景や、時代ごとの美意識の変化を理解し、説明できるようになる。 国や地域による美容文化の多様性を理解し、異なる価値観を受け入れる姿勢を育てる。															
受講条件		13美容科に入学していること															
教科書名		14美容文化論						教材名		15							
設備名・機器名		16						関連サイト		17							
関連前科目		18						関連後科目		19							
20. 授業計画 (授業コマ単位) 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位																	
回(コマ)		開講日		授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標						使用教科書・教材					
第1回				美容文化論とは何か		美容文化論の目的と、美容と文化の関係性を理解する						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第2回				古代の美容と装飾分化		古代文明における美容の起源と象徴的な意味を説明できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第3回				日本にも伝統美容① (奈良～平安時代)		平安時代の貴族文化と美容の関係を理解し、装いの意味を説明できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第4回				日本の伝統美容② (鎌倉～江戸時代)		江戸時代の町人文化における化粧、髪型、装いの特色を理解できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第5回				明治、大正期の美容と近代化		西洋化とともに変化した美容観や美容師の成立過程を理解できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第6回				昭和・戦後の美容と大衆文化		戦後復興期の美容と流行の返還を理解し、現代美容のルーツを説明できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第7回				美容師という職業の歴史		美容師制度の成立や資格制度の返還について説明できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第8回				美容と服飾・髪型の返還		時代ごとの髪型や服飾の変化と美容との関係性を理解する						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第9回				日本と世界の美容文化の比較		各国の美容文化の違いを理解し、多様性に対する感受性を養う						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第10回				美容とメディアの影響		雑誌、テレビ、SNSなどが美容幹に与える影響を理解できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第11回				美容とマナー・礼儀		美容行為と身だしなみの文化的・社会的意味を理解する						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第12回				美容と宗教・風俗		宗教や風俗における美容の意味を文化的背景から理解できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第13回				現代美容文化の課題		規範的美意識や自己表現の問題点について自分の考えを持てる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第14回				まとめと振り返り		全体の総括し、自らの美容観を言語化し発表できる						美容文化論の教科書 オリジナル教材					
第15回				期末試験		総合評価60点以上、合格											
第 回																	
成績評価方法 (当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) … 「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。																	
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。																	
↓判定方法\該当する観点→				知識・理解		思考・判断		関心・意欲		態度		技能・表現		評価配分%		評価基準	
①成績判定試験																秀 (S) : 100点～90点	
②確認テスト																優 (A) : 89点～80点	
③課題レポート																良 (B) : 79点～70点	
④授業態度																可 (D) : 69点～60点	
⑤作品																不可 (E) : 59点以下	
⑥プレゼンテーション																	
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。												不合格の場合		補修			
シラバス作成者		小林 昌子		シラバス承認者				授業担当教員									
								実務経験紹介									
更新履歴																	
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所				作成者		Check者(確認者)							
改1																	

科目名	美容文化論Ⅱ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	西洋のさまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を学び、来るべき時代の要請に応じられるデザイナーになる。 社会貢献ができる美容業界を目指す。 儀式的の席に着用する衣装より日本の伝統に触れ合い、欧米文化のしきたりとわが国のしきたりとの関係を理解する。 礼装の種類と特徴を知りTPOを明確にする							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験（文化論）合格レベルの知識習得 2. 風俗と時代背景とのつながりを読み解く 3. 髪型、化粧、服装などとのトータルバランスを学ぶ 4. 礼装（和装・洋装）の種類を学ぶ							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容文化論 日本理容美容センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	1. 美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	1. 日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	ファッション文化史 西洋編		古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ、古代ゲルマン 中世ヨーロッパの髪型・化粧・服装					
総合学習、小テスト								
第3回			近世Ⅰ(16世紀)、近世Ⅱ(17世紀)、近世Ⅲ(18世紀)の髪型・化粧・服装					
第4回			総合学習、小テスト					
第5回			近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め)、近代Ⅱ(19世紀)の髪型・化粧・服装					
第6回			総合学習、小テスト					
第7回			現代Ⅰ(1910年代～1920年代) 現代Ⅱ(1930年代～1940年代前半)の髪型・化粧・服装					
第8回			現代Ⅲ(1940年代後半～1950年代)、現代Ⅳ(1960年代)の髪型・化粧・服装					
第9回			現代Ⅴ(1970年代)、現代Ⅵ(1980年代)の髪型・化粧・服装					
第10回			現代Ⅶ(1990年代～2010年)の髪型・化粧・服装					
第11回			総合学習					
第12回	ファッション文化 現在		現在の髪型・化粧・服装（課題作成）					
第13回	礼装の種類		和装の礼装					
洋装の礼装								
総合学習								
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			30	B(2):70点以上
授業態度			○				20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

2025年度シラバス

科目名 ¹		美容技術理論1		学科名 ² (コース名)				学年	1学年
授業形態 ⁴		講義	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	国家資格	
教育課程区分 ⁷		必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹		該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		11美容師としての心構えと、美容技術の基礎理論を学ぶことにより技術の理解を高め美容実習の技術向上につなげる。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心をお客様に提供できる美容師をめざす。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		12・美容師国家試験（美容技術理論科目の筆記）合格レベルの知識習得 美容技術は薬剤の発展とともに複雑化し、正確に行わないと危険を伴うことがある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学ぶ。 ・現在の							
受講条件		13出席率80%以上が前提となる。							
教科書名		14美容技術理論1，美容実習1（日本理容美容教育センター）				教材名 ¹⁵	オリジナルプリント		
設備名・機器名		16				関連サイト ¹⁷	17		
関連前科目		18				関連後科目 ¹⁹	19		
20.授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位									
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		序章、美容技術理論を学ぶにあたって		美容技術者としての心構え・美容技術における作業姿勢と美容技術に必要な人体各部の名所を理解する。				授業プリント	
第2回		第1章 美容用具		用具・器具・機械（コーム・ブラシ）のはたらきと各部の名所、選定法・手入れ法を学んだあと確認テスト（練習問題）				授業プリント	
第3回	用具・器具・機械（シザーズ・レーザー）のはたらきと各部の名所、選定法・手入れ法を学んだあと確認テスト（練習問題）				授業プリント				
第4回	用具・器具・機械（ピン類・ヘアクリップ・ローラー）のはたらきと特徴（材質）学んだあと確認テスト（練習問題）				授業プリント				
第5回	用具・器具・機械（アイロン・ドライヤー・スチーム・遠赤外線機）のはたらきと特徴・手入れ法を学んだあと確認テスト（練習問題）				授業プリント				
第6回		序章～第1章の小テスト		序章～美容用具・器具・機械までのテスト（解答と解説）					
第7回		第2章 シャンプーイング		シャンプーの目的と内容の違い・シャンプー剤の成分・シャンプーイングの際の注意点・シャンプー技術の手順を理解する（復習プリントと練習問題）				授業プリント	
第8回	リンス・コンディショナー・トリートメントの目的と成分・種類について学ぶ（復習プリントと練習問題）				授業プリント				
第9回	スカルプトリートメントとヘッドスパの目的と種類について学び、技術の手順と技法名・目的を理解し学ぶ。（復習プリントと練習問題）				授業プリント				
第10回		シャンプーイングの小テスト		シャンプー～ヘッドスパまでのテスト（解答と解説）					
第11回		第4章 ヘアカットिंग		シザーとレーザーの取り扱い方。刃物の材質と材料の違いによる特徴。ヘアカットिंगの基礎理論を理解し、カット技法によるスタイル名とスタイルの特徴を理解する。				授業プリント	
第12回	シザーによるカット技法の特徴と違いを学ぶ。				授業プリント				
第13回	レーザーによるカット技法の特徴と違いを学ぶ。				授業プリント				
第14回		・ヘアカットिंगの小テスト・期末テスト対策		ヘアカットिंगの小テスト（解答と解説）と総復習					
第15回		期末テスト		第1回～第14回までの授業内容から記入式と四択問題で出題					
第 回									
21.成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。									
①成績判定テスト（期末テスト（筆記試験（70%））②単元ごとの小テスト（筆記試験（総合点、20%））③授業プリント提出（10%）（授業プリントにて不備有で各－1点）									
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①成績判定試験		1位					70	秀（S）：100点～90点	
②小テスト		1位					20	優（A）：89点～80点	
③課題レポート								良（B）：79点～70点	
④授業態度					1位		10	可（D）：69点～60点	
⑤作品								不可（E）：59点以下	
⑥プレゼンテーション									
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等	
シラバス作成者		シラバス承認者		授業担当教員					
				実務経験紹介					
更新履歴									
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Check者(確認者)	
改1									
改2									

「YIC京都シラバス様式及び記載項目/相互確認項目」

様式第一版:2024.7.16 YIC京都 校長

科目名 ¹		美容技術理論 ¹		学科名 ² (コース名)				学年	1 ³ 学年
授業形態 ⁴		講義	学期	後期	開講年月 ⁵	10月	該当資格区分 ⁶	国家資格	
教育課程区分 ⁷		必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹		該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		11美容師としての心構えと、美容技術の基礎理論を学ぶことにより技術の理解を高め美容実習の技術向上につなげる。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心を、お客様に提供できる美容師をめざす。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		12・美容師国家試験（美容技術理論科目の筆記）合格レベルの知識習得の美容技術は薬剤の発展とともに複雑化し、正確に行わないと危険を伴うことがある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学ぶ。・現在							
受講条件		13出席率80%以上が前提となる。							
教科書名		14美容技術理論1，美容実習1（日本理容美容教育センター）				教材名	15オリジナルプリント		
設備名・機器名						関連サイト	17		
関連前科目						関連後科目	19		
20授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位									
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		第3章ヘアデザイン		美容のデザインにいかすために錯覚現象を理解する。				授業プリント	
第2回				デザインの要素と効果を理解する。				授業プリント	
第3回		第3章の小テスト		美容とヘアデザインの小テスト（解答と解説）					
第4回				ウェーブが形成される仕組み・パーマ剤の分類・酒類・注意事項を理解する。				授業プリント	
第5回		第5章パーマネットウェービング		毛髪診断、施術前に適さないシャンプー剤、ロッドの選定と配列、プレ処理を理解する。				授業プリント	
第6回				ワインディング、1剤塗布、放置タイム、適正カール、中間リンス2剤塗布、ロッドアウト後のアフター処理を理解する。縮毛矯正について理解する。				授業プリント	
第7回		第5章パーマネットウェービングの小テスト		パーマネットウェービングのテスト（解答と解説）					
第8回				オリジナルセットとリセットの違い（基本的な要素）について理解する。シカールの各部の名称、カールの種類と特徴について違いを理解する。				ビ 授業プリント	
第9回		第6章ヘアセッティング		ウェーピングについてとスキップウェーブ・ターンシステムについて理解する。				授業プリント	
第10回				ローラーカーリング、ブロードライ、アイロンセッティング、アップスタイルについて理解する。					
第11回		第6章の小テスト		ヘアセッティングの小テスト（解答と解説）				授業プリント	
第12回				ヘアカラーの種類とタイプ別特徴と染毛のメカニズムを理解する。				授業プリント	
第13回		第7章ヘアカラーリング		色の基本、パッチテストと染毛剤使用時の注意事項、酸性染毛剤について理解する。				授業プリント	
第14回				ヘアカラーリングの小テスト・期末テスト対策				ヘアカラーリングの小テスト（解答と解説）と総復習	
第15回		期末テスト		第1回～第14回までの授業内容から記入式と四択問題で出題					
第 回									
21成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。									
①成績判定テスト（期末テスト（筆記試験（70%））②単元ごとの小テスト（筆記試験（総合点、20%））③授業プリント提出（10%）（授業プリントにて不備有で各-1点）									
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①成績判定試験		1位					70	秀（S）：100点～90点	
②小テスト		1位					20	優（A）：89点～80点	
③課題レポート								良（B）：79点～70点	
④授業態度					1位		10	可（D）：69点～60点	
⑤作品								不可（E）:59点以下	
⑥プレゼンテーション									
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等	
シラバス作成者				シラバス承認者		授業担当教員			
						実務経験紹介			
更新履歴									
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Checker(確認者)	
改1									
改2									
改3									
改4									
改5									

2025年度シラバス

科目名 ¹	美容技術理論Ⅲ		学科名 (コース名) ¹	美容科			学年	2 ³ 学年
授業形態 ⁴	講義	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分 ⁵	国家資格	
教育課程区分	必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹	美容師国家試験	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	¹ この科目は、国家資格の指定養成施設の要件である。また、当該内容は美容師国家試験で必要であるとともにトータルビューティ分野の基礎知識を身に付けることができる。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	¹ 当該科目の教育課程における位置づけは美容師国家試験受験、現場での基礎知識として位置づける。エステ、ネイル、メイク（ファンデーション）の分野において国家試験合格レベルの知識をつける							
受講条件	¹ 美容科2年生に在籍している							
教科書名	¹ 美容技術理論2(P2～P97) /日本理容美容教育センター				教材名	¹ オリジナルPowerPoint/オリジナルプリント/		
設備名・機器名	¹ 教材投影用プロジェクター・PC（教員用）				関連サイト	¹		
関連前科目	¹ 美容技術理論Ⅰ、美容技術理論Ⅱ 美容実習（ネイル）美容実習（メイク）				関連後科目	¹ 美容技術理論Ⅳ		
授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位 ²								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材
第1回		エステとは、皮膚の構造		エステの歴史・範囲、皮膚の構造を理解する。				美容技術理論2・オリジナルプリント L14:M27B30L14:M28B14:M30B3
第2回		カウンセリング、肌質、 マッサージ理論		肌質、種類、特徴について理解する/確認テスト①（エステの範囲、皮膚）				美容技術理論2・オリジナルプリント
第3回		マッサージ理論、基本手技		マッサージの基本手技の名称を覚える/確認テスト②（スキンチェックと肌質）				美容技術理論2・オリジナルプリント
第4回		フェイシャル及びデコルテ、 ボディマッサージ		パックの種類、特徴を覚える/確認テスト③（マッサージ基本技）				美容技術理論2・オリジナルプリント
第5回		エステ復習 ネイルの歴史		エステで学んだ分野の復習、ネイルの歴史を知る/確認テスト④（フェイシャルケア、デコルテマッサージ）				美容技術理論2・オリジナルプリント
第6回		ネイル技術の種類、爪の構造		ネイルの種類を理解し、説明できる。構造の復習				美容技術理論2・オリジナルプリント
第7回		爪の形状、技術と衛生、 カウンセリング		爪の形状と特徴を覚える。/確認テスト④				美容技術理論2・オリジナルプリント
第8回		カウンセリング、ネイルケア		ケアの道具と用途が説明できる				美容技術理論2・オリジナルプリント
第9回		アーティフィシャルネイル		メンテナンスの種類・特徴を理解し説明できる/確認テスト⑤				美容技術理論2・オリジナルプリント
第10回		ネイル総復習 腕のマッサージ		ネイルで学んだことの復習				美容技術理論2・オリジナルプリント
第11回		メイクアップの歴史		メイクの歴史を知る				美容技術理論2・オリジナルプリント
第12回		色彩、パーソナルカラー		パーソナルカラーについてグループ学習、発表				美容技術理論2・オリジナルプリント
第13回		メイクアップ		ファンデーションの種類、特徴を覚える				美容技術理論2・オリジナルプリント
第14回		テスト前総復習		期末テスト前総復習、確認テスト⑥（ファンデーション）				美容技術理論2・オリジナルプリント
第15回		成績判定試験		美容技術理論2(P2～P97)の範囲 71問 4択選択式、記述式の問題				試験問題・解答用紙
成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。								
成績判定：出席率80％以上、①成績判定試験（71問 50分）②確認テスト6回実施 ③授業態度・提出物 上記評価項目の各点数を下表の評価配分％にて按分し、総合点60点以上を合格とする。								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分％	成績評価基準
①成績判定試験		1位					70	秀（S）：100点～90点
②確認テスト		2位					20	優（A）：89点～80点
③課題レポート				4位	3位		なし	良（B）：79点～70点
④授業態度							10	可（D）：69点～60点
⑤作品							なし	不可（E）:59点以下
⑥プレゼンテーション							なし	
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補習、追試の有無等

2025年度シラバス

シラバス作成者	石田 美紀	シラバス承認者		授業担当教員	石田美紀
				実務経験紹介	

更新履歴					
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1					
改2					
改3					
改4					
改5					

2025年度シラバス

科目名 ¹	美容技術理論Ⅳ		学科名 (コース名) ²	美容科(昼)			学年	2 ³ 学年
授業形態 ⁴	講義	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分 ⁵	国家資格	
教育課程区分	必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹	美容師国家試験	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	¹ この科目は、国家資格の指定養成施設の要件である。また、当該内容は美容師国家試験が必要であるとともにトータルビューティ分野の基礎知識を身に付けることができる。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	¹ 当該科目の教育課程における位置づけは美容師国家試験受験、現場での基礎知識として位置づける。 メイク、まつ毛エクステンション、日本髪、着付けの分野において国家試験合格レベルの知識をつける							
受講条件	¹ 美容理論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みである。美容科2年生に在籍している							
教科書名	¹ 美容技術理論2(P98～P186)/日本理容美容教育センター				教材名 ¹	オリジナルPowerPoint/オリジナルプリント/		
設備名・機器名	¹ 教材投影用プロジェクター・PC(教員用)				関連サイト ¹			
関連前科目	¹ 美容技術理論Ⅲ				関連後科目 ¹			
授業計画(授業コマ単位) 学科:15コマ以上/単位、実習・演習:30コマ以上/単位 ²								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		ポイントメイクについて (アイブロー、アイ、リップ)	眉の基本の形の基本、代表的な眉の形を覚える					
第2回		ブライダルメイク、まつ毛エクステンション	まつ毛エクステンションのカウンセリングのタイミング、注意事項を理解する					
第3回		日本髪の各部名称、種類	日本髪の各部名称、特徴を覚える/確認テスト					
第4回		日本髪の調和、結髪技術	顔との調和のポイント、結髪順序を覚える/確認テスト					
第5回		かつら、礼装のついて	礼装と着物の種類を覚える					
第6回		着物の種類について	礼装と代表的な着物を覚える/確認テスト					
第7回		着物のいろいろ、帯	帯の種類、特徴を覚える					
第8回		小物、各部名称、たたみ方	着物の各部名称を覚える					
第9回		着付けの注意点、振袖、留袖の着付け	ひもを結ぶ位置、体型補整のタイミングを覚える/確認テスト					
第10回		男子礼装、袴、花嫁着付け、洋装花嫁	着付けの際の注意点を覚える					
第11回		エステ総復習、過去問演習	エステ分野の問題を通しての復習					
第12回		ネイル総復習、過去問演習	ネイル分野の過去問を通しての復習					
第13回		メイク総復習、過去問演習	メイク分野の過去問を通しての復習					
第14回		日本髪、着付け総復習、過去問演習	日本髪、着付け分野の過去問を通しての復習					
第15回		国家試験対策	過去問演習を通して国家試験に向け、覚えきれていない分野の復習を行う					
第 回		成績判定試験	美容技術理論1、2の範囲 100問 4択問題					
成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) …「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。								
成績判定:出席率80%以上、①成績判定試験 100問 70分 ②確認テスト4回実施 ③授業態度・提出物 上記評価項目の各点数を下表の評価配分%にて按分し、総合点60点以上を合格とする。								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験		1 位					80	秀(S):100点～90点
②確認テスト		2 位					10	優(A):89点～80点
③課題レポート							なし	良(B):79点～70点
④授業態度				2 位	1 位		10	可(D):69点～60点
⑤作品							なし	不可(E):59点以下

2025年度シラバス

⑥プレゼンテーション							なし	
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等
シラバス作成者		シラバス承認者		授業担当教員				
				実務経験紹介				
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Check者(確認者)
改1								
改2								
改3								
改4								
改5								

科目名	美容技術理論Ⅰ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心をお客様に提供できる美容師をめざす。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	序章 美容技術理論を学ぶにあたって			美容理論と美容技術について 美容技術における作業姿勢 美容技術に必要な人体各部の名称				
第2回	1章 美容用具			美容用具の特徴、各部の名称、取り扱い方				
第3回				美容用具の選定法と手入れ法				
第4回	2章 シャンプーイング			シャンプーイングの目的、シャンプー剤の成分				
第5回				シャンプーイングの注意点・シャンプー技術の違い(バックシャンプーとサイドシャンプー)				
第6回				リンス・コンディショナー・トリートメントの種類と成分、目的				
第7回				スカルプトリートメントの目的、技術手順 頭皮のトラブル、ヘッドスパ				
第8回	3章 ヘアデザイン			総合学習				
第9回				錯覚現象・デザインの要素				
第10回				デザインの原理				
第11回	4章ヘアカッティング			ヘアカッティングの目的 美容刃物の材質				
第12回				ヘアカッティングの基礎理論 各技法によるヘアスタイルの構成				
第13回				シザーズによる各カット技法の特徴と違い、効果				
第14回				レザーによる各カット技法の特徴と違い、効果				
第15回				総合学習				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福井 純子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/			

科目名	美容技術理論Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心を、お客様に提供できる美容師をめざす。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	パーマメントウェーブの理論	ウェーブが形成される仕組み パーマ剤の分類・種類・注意事項						
第2回	パーマメントウェーブ技術	毛髪診断、施術前に適さないシャンプー剤 ロッドの選定・配列 ブレ処理（毛髪の状態をコンディショニング）、ワインディング						
第3回		1剤塗布、放置タイム テストカールで見る適正カールの状態、中間リンス						
第4回		2剤塗布、ロッドアウト、ブレーンリンス・アフターリンスの目的 ウェーブチェック、スタイリング						
第5回	ワインディングのバリエーション	ロッドの巻き方と・各種ロッドの種類と特徴 宿毛矯正						
第6回	ヘアセッティングとは	オリジナルセットとリセットの違い（基本的な要素）						
第7回	ヘアカーリング	カールの各部の名称と4つの分類 ステムの方向と角度の関係						
第8回		ループの大きさ、毛先の扱い方とウェーブ幅 カールビニングの種類と技術上の注意点						
第9回		各種カール技術の手順とピンをとったところの特徴						
第10回	ウェーピング	ヘアウェーブの名称 ウェーブをつくる方法と形状の分類						
第11回		ピンカールがつくり出すウェーブ スキップウェーブ・ターンステムとは						
第12回	スタイリング	ローラーカーリング・ブロードライ・アイロンセッティング・アップスタイル・ウィッグとヘアピース						
第13回	ヘアカラー剤	ヘアカラーの種類とタイプ別特徴 種類別の染毛メカニズム						
第14回	注意事項	色の基本、毛髪のレベルとアンダートーン 皮膚炎とパッチテスト、						
第15回	技術手順	毛髪診断と色の出方 技術手順						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福井 純子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/			

科目名	美容技術理論Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心を、お客様に提供できる美容師をめざす。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	エステティック		概論、歴史・目的・注意点、エステティシャンの心得 皮膚の生理と構造					
第2回	カウンセリング		エステティックにおけるカウンセリング スキンチェック・肌質の種類と特徴					
第3回	マッサージ理論		基本手技（7種類）の目的、フェイシャルケアの効果・方法 フェイシャル及びデコルテマッサージ・バック					
ボディケアの種類と特徴 ボディマッサージ								
第5回	ネイル技術の概論、種類、爪の構造と機能		概論、さまざまなテクニック（3種類） 爪の構造と名称、爪のカット形状					
第6回	ネイル技術と公衆衛生公衆衛生		消毒方法と手順 カウンセリング（ネイルスタイルと爪の健康状態）					
第7回	ネイルケア		道具類の名称と使用目的 マニキュアとペディキュア技術の手順と内容					
第8回	アーティフェイシャルネイル		道具類の名称と使用目的 フレイパーションとグルー&フィラー技術の手順と内容					
第9回	手と足のマッサージ		マッサージの手順とポイント、目的					
総合学習								
第11回	メイクアップ概論		概論、顔の形態学的な観察 （プロポーション・骨格と筋肉・顔の立体感）					
第12回	メイクアップと色彩	皮膚の生理と構造	色の特性 表皮・真皮・皮下組織のはたらき					
第13回	メイクアップの道具		道具類の名称と使用目的、手入れ法					
第14回	スキんケア		スキんケア手順と目的					
第15回			総合学習					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福井 純子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/			

科目名	美容技術理論Ⅳ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心を、お客様に提供できる美容師をめざす。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 2 美容実習2 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	ベースメイクアップ	ファンデーションの目的・選び方・種類と特徴 塗り方と順序、カバーテクニク						
第2回	アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ	各種テクニクの技術と効果						
第3回	リップメイクアップ、ブラッシュオンメイクアップ	各種テクニクの技術と効果						
第4回	まつ毛エクステンション	まつ毛エクステンションにおける衛生及び保健 道具類の名称と使用目的、カウンセリングとアフターケア						
第5回		技術一例と注意事項						
第6回	日本髪	日本髪の各部の名称・種類と特徴・結い方での印象と顔とのバランス(調和)						
第7回	日本髪の装飾品と結髪道具	装飾品と髪結道具の名称と特徴・使用目的						
第8回	結髪技術とかつら	結髪技術の手順、かつら装着とはずし方・飾りの付け方、かつらの手入れ						
第9回	着付け(着物)	いろいろな着物の種類と特徴						
第10回	帯と着付け小物	帯の種類と特徴、着付け小物の名称と使用目的						
第11回	着物の各部名称とたたみ方	着物の名称、たたみ方手順と3種の違い						
第12回	着付け技術	留袖・振袖の着付け技術						
第13回		男子礼装羽織、袴・女子袴の着付け技術						
第14回	和装花嫁	花嫁衣裳の種類、婚礼衣装の着付け技術						
第15回	洋装花嫁	ウェディングドレスとベールの名称と特徴						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	○	◎				30	B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	石田 美紀			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/ishida/			

科目名	美容技術理論Ⅴ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。美容技術理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで学んだ事を土台として、さらにトータル的に美容について修得していく。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1、2 美容実習1、2 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	総合学習	美容技術理論を学ぶにあつたでの総合知識						
第2回		美容用具の総合知識						
第3回		シャンプーイングの総合知識						
第4回		ヘアデザインの総合知識						
第5回		ヘアカッティングの総合知識						
第6回		ヘアカッティングの総合知識						
第7回		パーマメントウェーピングの総合知識						
第8回		ヘアセッティングの総合知識						
第9回		ヘアカラーリングの総合知識						
第10回		エステティックの総合知識						
第11回		ネイル技術の総合知識						
第12回		メイクアップの総合知識						
第13回		日本髪 の総合知識						
第14回		着付けの理論と技術の総合学習						
第15回		苦手科目の強化						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

2025年度シラバス

科目名 ¹		運営管理		学科名 ² (コース名)		美容科 (昼間)		学年		I学年	
授業形態 ⁴		講義		学期		前期		開講年月 ⁵		4月	
教育課程区分 ⁷		必修		単位数 ⁸		1		時間数 ⁹		30	
								該当資格区分 ⁶		国家資格	
								該当資格名称 ¹⁰			
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		11美容における「経営」と「管理」に関わる内容を総合的に学ぶ									
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		12美容室の運営に必要な基本的知識を理解する 実際の店舗運営に応用できるスキルを身につける 将来的に自分のサロンを開業・運営できる素地を築く									
受講条件		13美容科に入学していること									
教科書名		14美容運営管理						教材名		15	
設備名・機器名		16						関連サイト		17	
関連前科目		18なし						関連後科目		19国家試験筆記対策	
20授業計画 (授業コマ単位) 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位											
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標						使用教科書・教材	
第1回		オリエンテーション・美容業界の現状と課題		授業の概要説明/美容業界の市場規模、トレンド、課題/サロンの種類とビジネスモデル							
第2回		美容サロンの経営形態と法規制		個人経営と法人経営の違い/美容業に関する法律/許可・届出の手続き							
第3回		サロンの事業計画と経営戦略		事業計画書の作成方法/サロンのターゲット設定とコンセプト設計/SWOT分析と経営戦略							
第4回		店舗運営とマネジメント		サロンの運営フロー (予約管理・売上管理・在庫管理など) /人材マネジメント (採用・教育・評価) /スタッフのモチベーション管理							
第5回		美容サロンの財務。会計基礎		損益計算書と貸借対照表/収支計画と資金繰りの基本/経費削減と利益向上のポイント							
第6回		価格設定とメニュー開発		サロンメニューの種類と価格の決め方/競合分析と価格戦略/メニュー開発のポイント							
第7回		マーケティング基礎 (集客・販売戦略)		美容業界におけるマーケティングの基本/オンライン・オフラインの集客手法/リピーターを増やすための施策							
第8回		SNS・デジタルマーケティング戦略		Instagram、TikTok、YouTubeを活用した集客/ホームページ、ブログの活用方法/口コミ、レビュー管理							
第9回		接客・カウンセリング技術		顧客満足度を向上させる接客マナー/ヒアリングと提案のスキル/クレーム対応の基本							
第10回		美容サロンのブランディング		ブランドコンセプトの作り方/差別化戦略と独自性の確立/店舗デザインと顧客体験の関係							
第11回		最新トレンドと技術改革		美容業界の最新トレンド/新技術、新サービスの導入事例/これからの美容業界の展望							
第12回		人材育成とリーダーシップ		スタッフの教育とスキルアップの方法/リーダーシップとチームマネジメント/美容業界でのキャリアアップ							
第13回		リスクマネジメントと衛生管理		トラブル、クレーム対応の具体例/衛生管理の重要性と基準/災害時、緊急時の対応策							
第14回		経営シミュレーション		模擬サロン経営のワーク/売上目標設定とマーケティング施策の立案/成果発表とフィードバック							
第15回		まとめ・今後のキャリアプラン		15回の授業を振り返り/自分のキャリアプランの考え方/質疑応答、ディスカッション							
第 回											
21.成績評価方法 (当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) …「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。											
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加点式or減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。											
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解		思考・判断		関心・意欲		態度		技能・表現	
①成績判定試験											
②確認テスト											
③課題レポート											
④授業態度											
⑤作品											
⑥プレゼンテーション											
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。										不合格の場合	
補修、追試の有無等											
シラバス作成者		小林 昌子		シラバス承認者				授業担当教員			
								実務経験紹介			
更新履歴											
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所				作成者		Checker(確認者)	
改1											

2025年度シラバス

科目名 ¹		美容実習（カット基礎）		学科名（コース名） ²		美容科		学年		1学年					
授業形態 ⁴		演習		学期		前期		開講年月 ⁵		4月		該当資格区分 ⁶			
教育課程区分 ⁷		必修		単位数 ⁸		1		時間数 ⁹		15		該当資格名称 ¹⁰			
科目の概要（全コマ数を俯瞰して）		11. カットの基礎技術であるベーシックカットを元にカット技法を知り、それぞれのスタイルを完成させる。													
科目の到達目標（教育課程の位置づけ）		12. ベーシックカットであるワンレングススタイル、グラデーションスタイル、レイヤースタイルをプラントカットなどのカット技法を身につけ、その後のカット応用や国家試験課題のカット技術に繋げるため、基礎を身につける。													
受講条件		13.													
教科書名		14. 美容実習Ⅰのテキスト						教材名		15. 美容実習Ⅰのテキスト					
設備名・機器名		16.						関連サイト		17.					
関連前科目		18.						関連後科目		19. 美容実習（カット応用）、国家試験課題カット					
20. 授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位															
回（コマ）		開講日		授業コマの主題（タイトル）		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標						使用教科書・教材			
第1回		4月15日		理論と道具の使い方		シザーズ・コームの持ち方と使い方/カットの基本姿勢（姿勢・立ち位置・目線）/角度などワンレングススタイルのデモンストレーション									
第2回		4月22日		ワンレングススタイル		ワンレングスカットのセクショニングとブロッキング/ガイドラインの設定とカット手順切り口のチェックと修正									
第3回		5月13日		ワンレングススタイル②		前回の復習をし、タイム計測をし全頭40分でチェックまでする事ができる									
第4回		5月20日		グラデーションスタイル		グラデーションカットの基本構造/オーバーダイレクションとガイドの見方カットラインの統一とバランスの取り方/重さと軽さのコントロール									
第5回		5月27日		グラデーションスタイル②		前回の復習									
第6回		6月3日		グラデーションカット③		前回の復習と全頭タイム取り、全頭40分									
第7回		6月10日		セიმレングスカット		ブロッキングとセクショニングについてカット工程とシステムの引き出す方向などを理解し、ガイドカットから始める									
第8回		6月24日		セიმレングスカット②		前回の復習									
第9回		7月1日		セიმレングスカット③		前回の復習と全頭タイム取り、全頭40分									
第10回		7月8日		メンズスタイルカット①		刈上げの仕方を理解し、実践する									
第11回		7月15日		メンズスタイルカット①		セiningシザーズを使用し、セining技術を理解し、実践する									
第12回		7月22日		ベーシックカットの組合せ		サロンスタイルを学ぶ									
第13回		7月29日		ベーシックカットの組合せ		サロンスタイルを学ぶ									
第14回		8月5日		ベーシックカットの組合せ		サロンスタイルを学ぶ									
第15回		8月19日		ベーシックカットの組合せ		仕上げ方を学ぶ									
第 回															
21. 成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。															
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分（加点式or減点式）・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。															
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解		思考・判断		関心・意欲		態度		技能・表現		評価配分%		成績評価基準	
①成績判定試験														秀（S）：100点～90点	
②確認テスト														優（A）：89点～80点	
③課題レポート														良（B）：79点～70点	
④授業態度														可（D）：69点～60点	
⑤作品														不可（E）：59点以下	
⑥プレゼンテーション															
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。												不合格の場合		補修、追試の有無等	
シラバス作成者		シラバス承認者				授業担当教員									
						実務経験紹介									
更新履歴															
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者				Checker（確認者）					
改1															

科目名	美容実習(カット応用)			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	カットによるサロンスタイル〜クリエイティブスタイルまでを理解し、シザーワーク技術でスタイルを作成する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト資料							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	カットスタイルでイメージを表現			スタイルからイメージを感じる(ヘアショーの見学や作品集からイメージを読み解く)				
第2回				スタイルからイメージを感じる(ヘアショーの見学や作品集からイメージを読み解く)				
第3回				スタイルからイメージを感じる(ヘアショーの見学や作品集からイメージを読み解く)				
第4回	サロンスタイル①			スタイルからカット展開図をイメージ、施術手順と技術を学び技術表現、作品作成				
第5回				チェックカットとスタイリング後、撮影・発表				
第6回	サロンスタイル②			スタイルからカット展開図をイメージ、施術手順と技術を学び技術表現、作品作成				
第7回				チェックカットとスタイリング後、撮影・発表				
第8回	サロンスタイル③			スタイルからカット展開図をイメージ、施術手順と技術を学び技術表現、作品作成				
第9回				チェックカットとスタイリング後、撮影・発表				
第10回	クリエイティブスタイル①			スタイルをデザインする				
第11回				スタイルからカット展開図をイメージ、施術手順と技術を学び技術表現、作品作成				
第12回				チェックカットとスタイリング後、撮影・発表				
第13回	クリエイティブスタイル②			スタイルをデザインする				
第14回				スタイルからカット展開図をイメージ、施術手順と技術を学び技術表現、作品作成				
第15回				チェックカットとスタイリング後、撮影・発表				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(パーマ基礎)			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	ベーシックパーマを理解する一カットスタイルに合わせたパーマ技術を施術できる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	パーマ技術の基礎知識を知る	ケミカルの基本・薬剤選定について					ウィッグ①・テキスト	
第2回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	パーマバリエーション～縦巻き・横巻き・斜め巻き						
第3回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	毛先巻き・中間巻き・逆巻き・スパイラル巻き						
第4回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	パーマバリエーション～縦巻き・平巻き・斜め巻き						
第5回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	毛先巻き・中間巻き・逆巻き・スパイラル巻き						
第6回	wig②前期で使用したショートレイヤーウィッグ	パーマバリエーション～縦巻き・平巻き・斜め巻き					ウィッグ②・テキスト	
第7回	wig②前期で使用したショートレイヤーウィッグ	毛先巻き・中間巻き・逆巻き・スパイラル巻き						
第8回	wig②前期で使用したショートレイヤーウィッグ	効果的な技法選定・施術						
第9回	wig②前期で使用したショートレイヤーウィッグ	効果的な技法選定・施術						
第10回	wig③前期作品作成で使用したデザインウィッグ	パーマバリエーション～縦巻き・平巻き・斜め巻き					ウィッグ③・テキスト	
第11回	wig③前期作品作成で使用したデザインウィッグ	効果的な技法選定・施術						
第12回	wig③前期作品作成で使用したデザインウィッグ	効果的な技法選定・施術						
第13回	wig④作品作成Ⅰ	カットスタイル～効果的なパーマ技術を施す					ウィッグ④・テキスト	
第14回	wig④作品作成Ⅱ	カットスタイル～効果的なパーマ技術を施す						
第15回	wig④作品作成Ⅱ	カットスタイル～効果的なパーマ技術を施す						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	石田 美紀			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/ishida/			

2025年度シラバス

科目名 ¹	美容実習（応用実習）		学科名 ² （コース名）	美容科（昼）			学年	2学年
授業形態 ⁴	実習	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	国家資格	
教育課程区分 ⁷	必修	単位数 ⁸	3	時間数 ⁹	90	該当資格名称 ¹⁰	美容師国家資格	
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）	11美容師として必要なカット、カラー、パーマの技術を1つのスタイルとして理解し完成することが出来る。 お客様に対して癒しの技術としてヘッドキュアの技術を身につける。							
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）	12美容師に必要な技術としてのカット、カラー、パーマを作品作りを通して理解し、イメージしたスタイルを完成する事ができる。 ヘッドスパの技術の繋がるヘッドキュアの技術を身につけ、検定取得する。							
受講条件	13美容実習（カット基礎）、美容実習（カラー基礎）、美容実習（パーマ基礎）の単位履修							
教科書名	14美容実習Ⅰ、理論Ⅰ、オリジナル教材				教材名	15授業内容に沿ったオリジナル教材		
設備名・機器名	16撮影照明機材一式、シャンプー台				関連サイト	17		
関連前科目	18美容実習（カット基礎）、美容実習（カラー基礎）、美容実習（パーマ基礎）				関連後科目	19美容実習（国家試験課題 総合Ⅱ）、美容総合（実技試験対策）		
20.授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回（コマ）	開講日	授業コマの主題（タイトル）		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標			使用教科書・教材	
第1回	4月14日	AWウィッグのカット		AWウィッグのカットを行い、その後の実習授業を円滑に行う土台作りをする				
第2回	4月14日	AWウィッグのカット		AWウィッグのカットを行い、その後の実習授業を円滑に行う土台作りをする パーマ後にセニングカットまで実施し、ピンカール作成をしやすくする				
第3回	4月28日	特別授業		トップスタイリストによる技術を間近で見て、今後のスタイルの発想や最新の技術を知るきっかけにする。				
第4回	4月28日	特別授業		トップスタイリストによる技術を間近で見て、仕上げ方やスタイリングの方法を知り、作品作りなどの活かし。				
第5回	5月12日	外部授業		同じ美容学生のフォトコンテストの作品を見学し、他校のレベルや想像力を身につける				
第6回	5月12日	外部授業		トップスタイリストのステージを見学し、パフォーマンス力や表現力を知るきっかけとする。				
第7回	5月19日	外部イベント参加		同じ美容学生や有名サロンの方のステージを見学し、自分のレベルを知る機会にするとともに、スタイリストの技術を見て、今後の目標を見つけ成長のきっかけとする。				
第8回	5月19日	外部イベント参加		ステージで行われる美容技術を見学し、サロンワーク以外での美容師の活躍の場を知り、今後に繋げるきっかけとする。				
第9回	5月26日	外部イベント参加		他校の美容学生のステージを見学し、技術レベルを知り、その後の授業や将来の美容師になった時に活かす。美容師のショーを通して、将来の目標を設定する機会とする				
第10回	5月26日	外部イベント参加		ステージ参加学生は、4月から放課後を利用し作り上げてきたショーの成果を発揮する今回の経験を今後に活かす。				
第11回	5月30日	フォト作品作り		フォトコンについて内容を理解し、作品作りの方法や手順を知り、作りたい作品のイメージを完成させる。				
第12回	5月30日	フォト作品作り		仕上がりイメージを用紙に書き込む。カットの展開図やカラー剤、メイクイメージ図を完成させる。				
第13回	6月2日	フォト作品作り		フォト作品を作っていく。 作品作りの手順に沿って、カットやカラーをイメージを確認しながら行っていく。				
第14回	6月2日	フォト作品作り		作品の全体のイメージを見ながら、メイクやファッション、撮影の際に必要な小道具などを作成していく。				
第15回	6月5日	ヘッドキュアを知る		ヘッドキュアの技術を知り、必要性を理解する。				
第16回	6月5日	ヘッドキュアを知る		ヘッドキュアの技術を知り、実践し体感する。				
第17回	6月16日	企業連携授業 ウィッグを使用したスタイル		ウィッグを使用し、サロンスタイルを完成する 指導された通りにカットが出来る（仮：ロングスタイル）				
第18回	6月16日	企業連携授業 ウィッグを使用したスタイル		カットしたウィッグを使用して、カラー技術を施しスタイリングまで行う。 指導された通りにカラーやスタイリングが出来る				
第19回	6月17日	外部イベント参加		ASIA BEAUTY EXP02025に参加し、有名スタイリストの技術をまじかで見学する				
第20回	6月17日	外部イベント参加		ASIA BEAUTY EXP02025に参加し、セミナーやメーカーのブースを見学し新しい技術や知識を得る				
第21回	6月23日	ヘッドキュア技術を理解する		手技を理解し、実践する事ができる				
第22回	6月23日	ヘッドキュア技術を理解する		手技を理解し、実践する事ができる				
第23回	6月26日	コンテストに向けて課題実施		7月にあるコンテストに向けて、出場予定の課題に取り組み入賞を目指す				
第24回	6月26日	コンテストに向けて課題実施		今後実施されるコンテスト参加に向けて、出場予定の課題に取り組み入賞を目指す				
第25回	6月27日	ヘッドキュアの知識を身につける		ヘッドキュアの技術と理論を理解する				
第26回	6月27日	ヘッドキュアの知識を身につける		ヘッドキュアの技術と理論を理解し、説明できる				
第27回	6月30日	コンテストに向けて課題実施		7月にあるコンテストに向けて、出場予定の課題に取り組み入賞を目指す				
第28回	6月30日	コンテストに向けて課題実施		今後実施されるコンテスト参加に向けて、出場予定の課題に取り組み入賞を目指す				
第29回	7月3日	フォト作品作り		カットカラーを各自のテーマを元に形にし、ヘア以外の箇所についてもテーマを沿うように工夫をしながら、実施していく				
第30回	7月3日	フォト作品作り		形にしたものに対して、カットであれば展開図、カラーであればカラー剤の調合や塗布の方法などを提出用プリントに記載、今後の作品作りのベースにする				
第31回	7月7日	外部コンテスト		コンテスト参加課題に対して、真剣に取り組み自分の設定した目標を達成させる				
第32回	7月7日	外部コンテスト		他校の学生の技術レベルを知る機会とし、今後の自分自身のレベルアップに繋げる				
第33回	7月7日	外部コンテスト		美容師の方の技術を見学し、将来の目標を見つける機会にする				
第34回	7月11日	フォト作品作り		トータル的に仕上げる/ヘアのみならず、メイクや撮影を想定してクオリティーの高い作品作りを行う				
第35回	7月11日	フォト作品作り		ファッションや撮影用の小物など、テーマのイメージに必要な物を準備、次回の撮影を円滑に行う				
第36回	7月24日	ヘッドキュア検定		実技試験/筆記試験合格レベルを目指す				
第37回	7月24日	ヘッドキュア検定		実技試験/筆記試験合格レベルを目指す				
第38回	7月28日	フォトコン 作品撮影		自分のイメージするテーマに沿った作品と仕上がりを含めて準備し、撮影する				
第39回	7月28日	フォトコン 作品撮影		撮影した作品を振り返り、今後に繋げる				
第40回	7月31日	ヘッドキュア検定（再）		検定不合格者は、再受験し合格を目指す 検定合格者は、ヘッドキュアの実践的な技術を習得する				
第41回	7月31日	ヘッドキュア検定（再）		検定不合格者は、再受験し合格を目指す 検定合格者は、ヘッドキュアの実践的な技術を習得する				

2025年度シラバス

第42回	8月4日	企業連携授業 ウィッグを使用したスタイル	ウィッグを使用し、サロンスタイルを完成する 指導された通りにカットが出来る（仮：ミディアムスタイル）	
第43回	8月4日	企業連携授業 ウィッグを使用したスタイル	カットしたウィッグを使用して、カラー技術を施しスタイリングまで行う。 指導された通りにカラーやスタイリングが出来る	
第44回	8月25日	企業連携授業 ウィッグを使用したスタイル	ウィッグを使用し、サロンスタイルを完成する 指導された通りにカットが出来る（仮：ショートスタイル）	
第45回	8月25日	企業連携授業 ウィッグを使用したスタイル	カットしたウィッグを使用して、カラー技術を施しスタイリングまで行う。 指導された通りにカラーやスタイリングが出来る	

成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。								
ヘッドキュアに関して、検定習得レベルの技術を身につける フォトコン作品に関して、テーマに沿った作品を完成させることと撮影を実施しコンテストに参加すること 企業連携授業については、ご指導頂く方のスタイルを完成させることと授業内でご指導頂いた内容をレポートに記入し提出								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験								秀（S）：100点～90点
②確認テスト								優（A）： 89点～80点
③課題レポート				4位			5%	良（B）： 79点～70点
④授業態度				1位	2位		90%	可（D）： 69点～60点
⑤作品						3位	5%	不可（E）：59点以下
⑥プレゼンテーション								
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等

シラバス作成者	小林昌子	シラバス承認者	山根大助	授業担当教員	福井純子
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/

更新履歴						
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所		作成者	Check者（確認者）
改1						
改2						
改3						
改4						
改5						

2025年度シラバス

科目名 ¹		美容実習（ワインディングⅠ）		学科名 ² （コース名）		美容科			学年		1学年				
授業形態 ⁴		実習		学期		前期		開講年月 ⁵		4月		該当資格区分 ⁶		国家資格	
教育課程区分 ⁷		必修		単位数 ⁸		3		時間数 ⁹		90		該当資格名称 ¹⁰		美容師国家資格	
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）		11. 国家試験実技課題のワインディングの基礎技術を習得すること。													
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）		12. ワインディングの配列を理解し、国家試験合格レベルに相当する作品を25分間で完成させる													
受講条件		13. 美容科1年生													
教科書名		14. 美容実習Ⅰ							教材名		15. オリジナル教材				
設備名・機器名		16.							関連サイト		17.				
関連前科目		18. なし							関連後科目		19. 美容実習（ワインディングⅡ）				
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位													20.		
回(コマ)		開講日		授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標						使用教科書・教材			
第1回		4月16日		オリエンテーション		実習道具の確認/道具の名称/机上セッティング/実習中のルール確認/評価方法						配列が表記されたプリント（オリジナル）			
第2回		4月16日		ブロッキングを理解する		コームの持ち方/ブロッキングとは/ブロッキングの手順を知る/実践						各自WDに必要な道具一式			
第3回		4月16日		ブロッキングを理解する		1 2 ブロッキングを完成させる/ブロッキングのタイム取り（目標タイム：1 0 分間） 授業内で最終で仕上げた作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第4回		4月23日		上巻きを習得する		ブロッキングの復習とタイム計測（目標タイム：1 0 分間）/上巻きの方法とステムの角度、ロッドの収まりを理解し、出来るようになる									
第5回		4月23日		上巻きを習得する		センターのオレンジ（6本）をオンベースに収める/平行に収める									
第6回		4月23日		上巻きを習得する		センターのオレンジ（6本）のタイム計測/ロッドの収まりの確認/タイム目標：1本1分 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第7回		5月14日		オレンジ6本をタイム内でキレイに巻くことが出来る		ブロッキングの復習とタイム計測（目標タイム：8分）/オレンジ6本の復習とタイム計測（目標タイム：1本5 0秒）									
第8回		5月14日		小テスト （6本6分で完成させる）		ブロッキングをした状態からオレンジ6本を6分以内に完成させる。 採点表を見ながら、自己採点を実施 ⇒ 採点表の提出 小テストの作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第9回		5月14日		下巻きを習得する		下巻きの方法を理解し、ステムの角度やロッドの収まり/ピンク～ブルーまで巻き、仕上がり状態を確認 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第10回		5月21日		センター1 6本をタイム内で仕上げる事が出来る		ブロッキングタイム取り（目標タイム：〇分）/センター1 6本のタイム計測（目標タイム：1本〇秒）									
第11回		5月21日		センター1 6本をタイム内で仕上げる事が出来る		ブロッキングはそのまま、センター1 6本をタイム内で巻く（目標タイム：1本3 0秒）									
第12回		5月21日		フロント5本を習得する		フロント5本のブロッキング/スライスの取り方/ステムの引き出す方向/ロッドの収まりを伝え、5本完成させることが出来る 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第13回		5月28日		センター1 6本をタイム内で仕上げる事が出来る		ブロッキングタイム計測（目標タイム：5分）/センター1 6本タイム計測（目標タイム：8分）/フロント5本の復習									
第14回		5月28日		小テスト （1 6本8分で完成させる）		ブロッキング（5分）とセンター1 6本（8分）をタイム計測し、チェックする 採点表を見ながら、自己採点を実施 ⇒ 採点表の提出 小テストの作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第15回		5月28日		フロントサイド（左右）の習得をする		フロント5本の復習/フロントサイドのスライスの取り方/ステムを引き出す方向と収まりを伝え、習得をする/左右の習得を目指す 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第16回		6月4日		フロントサイド（左右）の習得をする		ブロッキング～センター1 6本のタイム計測（15分以内）/フロント5本のタイム計測（目標タイム：5分間）/フロントサイド（左右）の配列の収まりの確認									
第17回		6月4日		フロント・フロントサイド（左右）の習得をする		センターを残した状態で、フロント～フロントサイド（左右）のタイム計測（目標タイム：1 5分）									
第18回		6月4日		これまでの復習とタイム計測		ブロッキング（5分間）/センター1 6本（7分間）/フロント5本（3分間）/フロントサイド（左右）（1 0分間） 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第19回		6月11日		これまでの復習とタイム計測		ブロッキング（5分間）/センター1 6本（7分間）/フロント～フロントサイド（左右）（1 5分間）									
第20回		6月11日		小テスト （フロント・フロントサイド（左右）タイム内で仕上げる事が出来る		ブロッキングとセンター1 6本を事前に完成させておき、小テストを実施 フロント・フロントサイド（左右）のタイム計測を実施（1 5分以内） 評価表を見ながら、自己採点を実施 ⇒ 採点表の提出 小テストの作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第21回		6月11日		バックサイド（左右）を理解し作成することができる		バックサイドのスライスの取り方/ステムの引き出す方向/ロッドの収まりや仕上りを伝え、完成させることが出来る 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第22回		6月18日		前回までの復習		ブロッキングタイム計測（目標タイム：5分以内）/センター1 6本（7分間）/フロント5本（3分以内）/フロントサイド（左右）（6分3 0秒）/バックサイドの復習									
第23回		6月18日		バックサイド（左右）を理解し作成することができる		バックサイドタイム計測（左右）（目標タイム：1 5分間）									
第24回		6月18日		全頭完成		サイド（左右）まで完成/全頭の復習と仕上げを行い、ロッドの収まりや配列の確認・左右対称に仕上げられているかを確認 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出									
第25回		6月25日		全頭タイム取り		ブロッキング（5分間）/センターから実施し、全頭を続けて巻いていく。（目標タイム：2 7分間）									
第26回		6月25日		全頭タイム取り		オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施（3 0分間）									

2025年度シラバス

第27回	6月25日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施（30分間） 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出	
第28回	7月2日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施（29分間）	
第29回	7月2日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施（29分間）	
第30回	7月2日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施（28分間） 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出	
第31回	7月9日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）/目標タイム：26分間	
第32回	7月9日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）	
第33回	7月9日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる） 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出	
第34回	7月23日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）	
第35回	7月23日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）/目標タイム：25分間	
第36回	7月23日	全頭タイム取り	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる） 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出	
第37回	7月30日	全頭タイム取り（復習）	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）	
第38回	7月30日	模擬試験①	全頭25分以内で仕上げる 期末試験に準ずる採点基準で採点を実施 模擬試験の作品を写真に残し、クラスルームに提出	
第39回	7月30日	全頭タイム取り（復習）	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）	
第40回	8月6日	全頭タイム取り（復習）	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）	
第41回	8月6日	全頭タイム取り（復習）	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）	
第42回	8月6日	全頭タイム取り（復習）	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる） 授業内の最終作品を写真に残し、クラスルームに提出	
第43回	8月27日	全頭タイム取り（復習）	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）	
第44回	8月27日	模擬試験②	全頭25分以内で仕上げる 期末試験に準ずる採点基準で採点を実施 模擬試験の作品を写真に残し、クラスルームに提出	
第45回	8月27日	全頭タイム取り（復習）	オールバックの状態から全頭のタイム計測を実施し、仕上がり状態を確認後、構成の見直しを行う（左右対称の作品を完成させる）	
第 回		期末評価	オールバックの状態から全頭25分以内で行う	

成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。21.

①期末試験【配点：○%】 内容：全頭25分以内で仕上げる 評価：構成通りに仕上がりか、左右対称の仕上がりか、収まりの角度 ②課題提出 各最終授業の作品をクラスルームに提出しているか（未提出1ケにつき、○点減点） ③授業態度 1コマ欠席につき、○点減点、授業中に2回注意を受けた場合は、○点減点							
↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験	1		2	3			秀（S）：100点～90点
②確認テスト	1		2				優（A）：89点～80点
③課題レポート（課題提出：クラスルーム）			2	1			良（B）：79点～70点
④授業態度				1			可（D）：69点～60点
⑤作品							不可（E）：59点以下
⑥プレゼンテーション							
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。						不合格の場合	補修、追試の有無等

シラバス作成者	小林 昌子	シラバス承認者		授業担当教員	石田美紀/小林昌子
				実務経験紹介	

更新履歴				
シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				

科目名	美容実習(ワインディングⅡ)			単位数	2	科目コード			
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ワインディング (国家課題Ⅰ)								
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベル・コンクールレベルの知識習得 2. ロッド使用しパーマの形成を理解する 3. 人間性の醸成								
受講条件	出席率80%以上が前提となる								
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習1 美容技術理論1 日本理容美容教育センター								
授業の到達目標									
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。								
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。								
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。								
☐ 技能・表現の観点									
授業計画(全体)									
授業計画(授業単位)									
回	主 題			授 業 内 容			備考		
第1回	実力確認テスト (何分で仕上げられるか)			自己ベストタイムを確認する			タイム計測		
第2回	実力確認テスト (ブロッキングとロットの配置)			正確なブロッキングが出来ているのか確認してもらう。ロッドの配置(パネルの方向性、ステム角度、号数)は正確かを確認してもらう			タイム計測無し		
第3回	難点部分の技術強化			姿勢・立ち位置、道具類の使い方を再確認し、意識しながら作業をする					
第4回				スライス線を、美しく・正確に取れているのかを再確認し、作業する			タイム計測無し		
第5回	実力確認テスト (20分で正確に)			難点部分を改善し、目標タイムに入る				タイム計測	
第6回				難点部分を改善しつつ、自己タイムを縮める					
第7回				難点部分を改善し、目標タイム(20分)に入る					
第8回	美しい、コンクールを意識した作品完成			難点部分を改善しつつ、自己タイムを縮める			タイム計測		
第9回				毛幅、面(つや)、ゴムのねじれ、バランス、つながり、おくれ毛を意識する					
第10回				目標タイムを設定し美しく、正確に仕上げる			タイム計測		
第11回				目標タイムを設定し美しく、正確に仕上げる					
第12回	実力確認テスト (20分で正確に美しく)			正確に美しく仕上げ、手直しタイム2分込みで、目標タイムに入る			タイム計測20分以内		
第13回	技術の定着			改善点を向上する技術を定着、タイム計測時も安定した技術を発揮する					
第14回									
第15回	実力確認テスト (20分で正確に美しく)			正確に美しく仕上げ、手直しタイム2分込みで、目標タイムに入る					
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上									
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		◎	○			◎		100	S(4):90点以上
小テスト									A(3):80点以上
宿題授業外レポート									B(2):70点以上
授業態度									C(1):60点以上
発表・作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習								評価なし	
出席				○				欠格条件	
担当教員	石田 美紀				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/ishida/			

2025年度シラバス

科目名 ¹	美容実習（ワインディングⅢ）		学科名 ² （コース名）	美容科			学年	2学年
授業形態 ⁴	実習	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	国家資格	
教育課程区分 ⁷	必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）		11 美容師国家試験課題のワインディング技術を習得することで、美容師として必要な技術と知識を習得する 国家試験課題の技術を習得することで、国家資格取得する						
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）		12 美容師国家資格取得に相当する技術を取得する						
受講条件		13 美容実習（ワインディングⅡ）の単位取得						
教科書名		14 美容実習Ⅰ			教材名	15		
設備名・機器名		16			関連サイト	17		
関連前科目		18 美容実習（ワインディングⅡ）			関連後科目	19 国家試験総合		
20. 授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標			使用教科書・教材	
第1回	4月18日	オリエンテーション		準備物の確認（机上セッティングの徹底）/授業ルール（服装、髪型、実習着着用、スニーカー）/到達目標：全頭20分以内、国家試験合格レベル 定期的の小テストの実施→理解度の確認 欠席→1回○点減点/態度点 → 私語、指示に従わない場合は減点、2回目の注意でも改めない場合は退室、欠課。 オールバックの状態から全頭タイム取り（22分）1年次期末試験内容 ※道具の使い分けをしっかりとしながら、タイム内を目指すこと				
第2回	4月25日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点				
第3回	5月9日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点				
第4回	5月16日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点				
第5回	5月30日	小テスト		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し ※合格基準→タイム取りの実施、合格基準み到達→構成の見直し、巻き方の復習 ※席替えを実施（合格レベル/レベル未到達）				
第6回	6月6日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点				
第7回	6月20日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点				
第8回	6月27日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点				
第9回	7月4日	小テスト		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し ※合格基準→タイム取りの実施、合格基準み到達→構成の見直し、巻き方の復習 ※席替えを実施（合格レベル/レベル未到達）				
第10回	7月11日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点				
第11回	7月18日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点				
第12回	7月25日	小テスト		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し ※合格基準→タイム取りの実施、合格基準み到達→構成の見直し、巻き方の復習 ※席替えを実施（合格レベル/レベル未到達）				
第13回	8月1日	小テスト		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し ※合格基準→タイム取りの実施、合格基準み到達→構成の見直し、巻き方の復習 ※席替えを実施（合格レベル/レベル未到達）			QCのため、285教室	
第14回	8月22日	全頭タイム計測と構成の理解		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し 国家試験の評価表を元に自己採点			QCのため、285教室（合同）	
第15回	8月29日	小テスト		全頭タイム取り20分 → 構成の見直し ※合格基準→タイム取りの実施、合格基準み到達→構成の見直し、巻き方の復習 ※席替えを実施（合格レベル/レベル未到達）				
第16回	8月29日	期末評価		全頭20分以内で仕上げる				
21. 成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。								
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加点式or減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験		1		3	2		80	秀（S）：100点～90点
②確認テスト		1			2		20	優（A）：89点～80点
③課題レポート								良（B）：79点～70点
④授業態度							なし	可（D）：69点～60点
⑤作品							なし	不可（E）:59点以下
⑥プレゼンテーション							なし	
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等
シラバス作成者	小林 まさこ	シラバス承認者		授業担当教員				
				実務経験紹介				
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所			作成者	Check者(確認者)	
改1								
改2								
改3								
改4								
改5								

科目名	美容実習(ウェーブ)		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ヘアセッティング							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベルへの引き上げ 2. 正確な技術の習得 3. 人間性の醸成 4. セッティングやデザインの復元に富んだ長持ちするコームアウトが容易にできるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習 1 美容技術理論 1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回～2回	理論と基礎技術 理論と基礎技術	ブロッキング ウェーブ作成	道具説明、馬蹄形にフロントをブロッキングし、ウェーブ実習使用に適した状態に整えローション塗布 イヤtoイヤをブロッキングし、後頭部でフィンガーウェーブ シェービング(半円)を作る作業					
第3回～9回	理論と基礎技術	ウェーブ・リッジ作成	フィンガーウェーブ シェービング(半円)、リッジを作る作業 両サイドのブロッキングをはずし、ローションを塗布し2段目からフィンガーウェーブ					
第10回～16回	理論と基礎技術	構成	2段目から7段目のフィンガーウェーブ シェービング(半円)、リッジを作る作業					
第17回～24回	理論と基礎技術	構成・クロッキノールカール	2段目～6段目のフィンガーウェーブ シェービング(半円)、リッジを作る作業 7段目クロッキノールカール作成、3段目スカルプチュアカール作成					
第25回	理論と基礎技術	構成・クロッキノールカール	1段目馬蹄形の説明→馬蹄形を作る 1段目スカルプチュアカール作成					
第26回～31回	理論と基礎技術	スカルプチュアカール	1段目スカルプチュアカール→2段目フィンガーウェーブ シェービング(半円)、リッジを作る					
第32回	理論と基礎技術	スカルプチュアカール	1段目スカルプチュアカール→2段目～6段目のフィンガーウェーブ シェービング(半円)、リッジ→ 7段目クロッキノールカールを作る					
第33回～35回	理論と基礎技術	スカルプチュアカール	1段目スカルプチュアカール→2段目～6段目のフィンガーウェーブ シェービング(半円)、リッジ→ 7段目クロッキノールカールを作る					
第36回～46回	全体の構成とカール・ウェーブのサイズ	1段目スカルプチュアカールの復習(ウェーブ、スライスの取り方、シェーブの方法、ピンニング)→作 成しながら2段目につなげる構成を理解する						
		1段目スカルプチュアカール→2段目～6段目のフィンガーウェーブ シェービング(半円)、リッジ→ 7段目クロッキノールカールを作る						
		7段目クロッキノールカールの復習(ウェーブ、スライスの取り方、シェーブの方法、ピンニング)						
		フロント(スカルプチュアカール)～7段目(クロッキノールカール)まで作成し、全体のバランスみな がら35分で仕上げる事を達成目標とする						
		フロント(スカルプチュアカール)～7段目(クロッキノールカール)まで作成し、全体のバランスみな がら30分で仕上げる事を達成目標とする 正確サイズで仕上げる						
		1段目・・・サイズに忠実に6分目安で作成する						
		2～6段目・・・サイズに忠実に、構成を把握し、2段目～4段目→各3分、5～6段目→各2分、7段目→5分 でウェーブとリッジを作成する(計13分目安)						
第47回～51回	後期期末試験課題作成	1 段目：フロント(スカルプチュアカール)、2 段目：ウェーブ・リッジ、3 段目：ウェーブ・リッジ 4 段目：ウェーブ・リッジ、5 段目：ウェーブ・リッジ、6 段目：ウェーブ・リッジ、7 段目：クロッ キノールカール までを32分で仕上げる事を目標とする			目標35分			
		全順35分以内に仕上げる						
第52回	確認テスト							
第53回～第60回	後期期末試験課題作成	1 段目：フロント(スカルプチュアカール)、2 段目：ウェーブ・リッジ、3 段目：ウェーブ・リッジ 4 段目：ウェーブ・リッジ、5 段目：ウェーブ・リッジ、6 段目：ウェーブ・リッジ、7 段目：クロッ キノールカール までを29分で仕上げる事を目標とする 1分で全頭チェック手直し 評価項目【国家に准じる】 *全体の構成が理解出来ている *スカルプチュアカール・クロッキノールカールのサイズ、位置、作り方を 理解している *ウェーブのシェーブを常に床と並行に動かし、面を揃えて正確にCカール を作る事が出来る *正確なシェービングをし、ウェーブの面が揃うリッジを作る事が出来る			30分で作品制作			
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	小林 昌子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kobayashi/			

2025年度シラバス

科目名 ¹		美容実習（和装技術）		学科名 ² （コース名）		美容科		学年 ³		1学年							
授業形態 ⁴		実習		学期		前期		開講年月 ⁵		4月		該当資格区分 ⁶					
教育課程区分 ⁷		必修		単位数 ⁸		1		時間数 ⁹		15		該当資格名称 ¹⁰					
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）		11留袖着付、白無垢、色打掛、和装のヘアスタイル															
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）		12色々な種類の着付を学び、和装を理解するとともに、留袖着付が出来るようになることで美容師としての技術を身につける															
受講条件		13特になし															
教科書名		14美容実習2のテキスト						教材名		15美容実習2のテキスト							
設備名・機器名		16ボディ、着物一式						関連サイト		17							
関連前科目		18なし						関連後科目		19美容実習（カット応用）							
20授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位																	
回（コマ）		開講日		授業コマの主題（タイトル）		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標						使用教科書・教材					
第1回		4月15日		着付の基礎知識と準備		留袖とは（種類、特徴、TP0）/必要な小物・道具の確認/肌着・長襦袢の着方 裾線・衣紋の抜き方の基本											
第2回		4月22日		長襦袢の着付		裾すばまりのシルエットを作る方法/襟合わせのコツ（左右対称、美しいVライン） 腰ひも、伊達締め の使い方											
第3回		5月13日		長襦袢の着付		裾すばまりのシルエットを作る方法/襟合わせのコツ（左右対称、美しいVライン） 腰ひも、伊達締め の使い方											
第4回		5月20日		留袖着付（基本）		留袖を羽織る➡襟合わせ➡腰ひもの結び方/おはしよりの整え方/身幅の調整											
第5回		5月27日		留袖着付（基本）		留袖を羽織る➡襟合わせ➡腰ひもの結び方/おはしよりの整え方/身幅の調整											
第6回		6月3日		伊達締め・帯板・帯枕の準備		おはしよりの仕上げ方（折り返し、すっきり見せるコツ）/伊達締めの位置と締め方 帯板・帯枕の準備と位置確認											
第7回		6月10日		伊達締め・帯板・帯枕の準備		おはしよりの仕上げ方（折り返し、すっきり見せるコツ）/伊達締めの位置と締め方 帯板・帯枕の準備と位置確認											
第8回		6月24日		留袖着付（タイム取り）		通し練習①											
第9回		7月1日		留袖着付（タイム取り）		細かい修正ポイントを学ぶ											
第10回		7月8日		留袖着付（タイム取り）		通し練習② スピードアップ											
第11回		7月15日		留袖着付（タイム取り）		試験形式での着付											
第12回		7月22日		花嫁着付の基礎と準備		花嫁衣裳の種類と特徴（白無垢、色打掛、振袖の違い） 着付に必要な道具、小物/長襦袢・補正の仕方/掛下の着付/綿帽子 ★女子モデル1名（身長 160cm以上）						長谷美容室様 授業用プリントの作成					
第13回		7月29日		掛下帯・打掛の扱い方		花嫁振袖、男子礼装（紋服） ★男子モデル1名★女子モデル						長谷美容室様					
第14回		8月5日		かつら合わせ・水化粧		かつらの種類と特徴/かつらの着せ方・調整方法						長谷美容室様					
第15回		9月2日		和装の洋髪		和装洋髪の基本とスタイルの理解/仕上げと飾りのアレンジ ウィッグを使用した洋装のヘアアレンジの実践（2人で1台ウィッグを使用し、実践）						長谷美容室様					
第 回																	
21成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。																	
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分（加点式or減点式）・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。																	
↓判定方法\該当する観点→				知識・理解		思考・判断		関心・意欲		態度		技能・表現		評価配分%		成績評価基準	
①成績判定試験																秀（S）：100点～90点	
②確認テスト																優（A）： 89点～80点	
③課題レポート																良（B）： 79点～70点	
④授業態度																可（D）： 69点～60点	
⑤作品																不可（E）：59点以下	
⑥プレゼンテーション																	
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。												不合格の場合		補修、追試の有無等			
シラバス作成者				シラバス承認者				授業担当教員									
								実務経験紹介									
更新履歴																	
シラバス更新履歴				更新理由				更新箇所				作成者				Check者（確認者）	
改1																	

2025年度シラバス

科目名	美容実習（まつ毛エクステンション）		学科名 （コース名）	美容科（昼）			学年	1学年
授業形態	実習	学期	後期	開講年月	10月	該当資格区分	国家資格	
教育課程区分	必修	単位数	1	時間数	30時間	該当資格名称	美容師国家試験	
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）	まつ毛エクステンションの正しい技術と知識、安全で衛生的な施術を行うための基本を教授する。 美容師国家資格のカリキュラムにおいて、顧客の目の健康を守るために必要な技術を教授する。 当該内容は法令遵守とトラブル防止の観点からも不可欠な学習内容である。							
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）	本科目は、美容師免許の指定養成施設要件に適合し、卒業要件として位置付けられる。 まつ毛エクステンションの基礎知識と技術を体系的に学び、安全かつ適切な施術能力を養う。 衛生管理に配慮し、エクステンションの装着およびリムービングが適切に行えるようになる。 並担や安全管理の理解を深め、トラブル防止の対応力を養う。							
受講条件	美容科に在籍している							
教科書名	まつ毛エクステンション/公益社団法人 日本理容美容教育センター/2021年4月1日発行				教材名	ABE text book Eyelash extensions/2020年2月1日発行/公益社団法人 日本理容美容教育センター/オリジナルPowerPoint(まつ毛エクステンション) /YICオリジナルプリント		
設備名・機器名	YICオリジナルまつ毛エクステンション教材				関連サイト	https://www.rbc.or.jp/		
関連前科目	該当なし				関連後科目	美容技術理論Ⅳ 美容総合（筆記試験対策Ⅰ）（筆記試験対策Ⅱ）		

授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位

回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標	使用教科書・教材
第1回	9月30日	まつ毛エクステンション概論	まつ毛エクステンションとは何かを理解する（座学）P.4～P.7	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第2回	10月7日	グルーの使用方法、 ツイザーの持ち方	まつ毛エクステンションの用具（備品・道具）の理解する（座学）P.8～P.11 教材検品	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第3回	10月14日	テーブルセッティング 装着（Jカール）	グルーの使用に関する注意点について理解するP.13～P.15（座学） テーブルセッティングについて理解する（座学・実習）	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第4回	10月21日	テーブルセッティング テーピング	テーピングの種類を理解し、適切な技術を習得する。P.21～P.22(座学) テーブルセッティングを復習し、実践力を高める。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第5回	10月28日	人工毛について テーピング・かき分け	人工毛の特性を理解し、正確なテーピングとかき分け技術を習得する。 P.18～P.20(座学)	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第6回	11月4日	小テスト (まつ毛エクステンションの知識)	小テスト（座学）テーブルセッティングとテーピングを正しく復習し、Jカール紙への装着技術を習得する。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第7回	11月18日	かき分け・装着・テーピング	かき分けとテーピングの理解を深め、正確に実践できるようになる。 Jカール10本をテーピング用パーツに装着し、技術を習得する。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第8回	11月25日	装着とリムービング	リムービングの手順と注意点を理解し、安全に実施できるようになる。Jカール10本を正確に装着し、テーピング技術を習得する。P.16～17（座学）	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第9回	12月2日	装着とリムービング（復習）	テーブルセッティングを10分以内に完了し、正確なテーピングとJカールの装着技術を習得する。リムービングの手順を理解し、安全に実施できるようになる。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第10回	12月9日	通し練習	テーブルセッティングを制限時間内に正確に完了し、ウィッグへのJカール装着技術を習得する。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第11回	12月16日	小テスト (実技)	テーピングと装着技術を正確に習得し、小テストで適切に実践できるようになる。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第12回	1月13日	タイム計測	Jカールのテーピングと装着を制限時間内に正確に実施し、リムービングを安全に行えるようになる。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第13回	1月20日	筆記：期末試験 実技：模擬試験	テーブルセッティングから装着までを制限時間内に正確に実施し、片目のリムービングを適切に行う。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第14回	1月27日	期末試験	まつ毛エクステンションの知識と技術を正確に理解し、テストを通じて適切に実践できることを確認する。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材
第15回	2月10日	カラーエクステンション Cカール	さまざまな種類のエクステの特徴を理解し、適切な取り扱い方法と装着技術を習得する。	まつ毛エクステンション YICオリジナルまつ毛エクステンション教材

成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。

①筆記期末試験【配点：35%】
形式：選択問題、設問数：40問（1問1点、満点40点）、試験時間：30分、配点調整：40点満点を35点満点に換算
②実技期末試験【配点：45%】

↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①筆記期末試験	1位					35	秀（S）：100点～90点 優（A）：89点～80点 良（B）：79点～70点 可（D）：69点～60点 不可（E）：59点以下
②実技期末試験	2位				1位	45	
③提出物			2位	1位		10	
④授業態度				1位		10	
⑤作品						なし	
⑥プレゼンテーション						なし	
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。						不合格の場合	再試験1回のみ、補習の実施

シラバス作成者	日隈 朱梨	シラバス承認者	山根 大助	授業担当教員	日隈 朱梨
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voicecat/teacher/

更新履歴

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				

2025年度シラバス

科目名	美容実習（メイク）		学科名 （コース名）	美容科			学年	1学年
授業形態	実習	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	国家検定	
教育課程区分	必修	単位数	2	時間数	30時間	該当資格名称	美容師国家試験	
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）	本科目は、JMA（日本メイクアップ技術検定協会）3級資格取得に必要な基礎的なメイク技術を習得することを目的としています。メイクアップの基本的な知識と技能を身につけ、実際の場面で適切に活用できる能力を養います。メイクの基礎から応用に至るまでの流れを理解し、実技を通じて、理論と実践を結びつけることが重要です。							
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）	3級試験における各パート（スキングケア、ベースメイク、チーク、ハイライト、ローライト等）を正確に実施し、審査基準に合致したメイクアップができる。 合格基準を理解し、それに基づいて技術を磨き、試験当日に安定したパフォーマンスを発揮できる。							
受講条件	美容科に在籍している							
教科書名	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版				教材名	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版 YICメイクオリジナル教材		
設備名・機器名	該当なし				関連サイト	https://www.jma-makeup.or.jp/		
関連前科目	該当なし				関連後科目	メイクブライダル専攻Ⅰ		
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回（コマ）	開講日	授業コマの主題（タイトル）	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回	4月17日	授業の進め方・道具のチェック＆手入れ法	授業を受ける際の注意事項・道具を適切に点検し、手入れ方法を理解・実践できるようにする。				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第2回	4月17日	道具の置き方・身だしなみ・セッティング	テーブル、モデルセッティングや身だしなみについて理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第3回	4月24日	復習①セッティング・ポイントクレンジングデモ	ひざ掛けケープ、ダッカールの説明・ポイントクレンジングについて理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第4回	4月24日	ポイントクレンジングデモ・ウィッグで練習	ポイントクレンジング練習（ウィッグ）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第5回	5月8日	復習②ポイントクレンジング	ポイントクレンジング練習（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第6回	5月8日	全体クレンジングデモ・相モデル練習	全体クレンジング（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第7回	5月15日	復習③クレンジング・クレンジング相モデル練習	クレンジング（相モデル）復習を行い理解を深める				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第8回	5月15日	化粧水・プライマーデモ相モデル練習	化粧水・乳液（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第9回	5月22日	小テスト① ポイントクレンジング・全体クレンジング	ポイントクレンジング・全体クレンジング（小テスト）ベースメイク（相モデル）での練習を実施し理解する・コントロールカラーデモンストレーション				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第10回	5月22日	復習④化粧水・乳液・コントロール	化粧水・乳液・コントロールカラー（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第11回	5月29日	手指消毒～コントロールカラー通し練習	手指消毒～コントロールカラー（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第12回	5月29日	ファンデーション、コンシーラー、フェイスパウダーデモ	ファンデーション・コンシーラー、フェイスパウダー（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第13回	6月5日	スキンケア～フェイスパウダー練習・チークデモ	スキンケア～フェイスパウダー（相モデル）での練習を実施し理解する チークデモンストレーション				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第14回	6月5日	スキンケア～フェイスパウダー・チーク練習	スキンケア～フェイスパウダー・チーク（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第15回	6月12日	スキンケア～フェイスパウダー・チーク復習	スキンケア～フェイスパウダー・チーク（相モデル）の練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第16回	6月12日	ハイライト・ローライトデモ・練習	ハイライト・ローライト（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第17回	6月19日	3級通し練習	タイム計測（35分）を行いタイム内に入れる				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第18回	6月19日	3級通し練習	タイム計測（35分）を行いタイム内に入れる				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第19回	6月26日	3級通し練習	タイム計測（30分）を行いタイム内に入れ仕上がり検定合格レベルまで強化する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第20回	6月26日	3級通し練習	タイム計測（30分）を行いタイム内に入れ仕上がり検定合格レベルまで強化する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第21回	7月3日	3級通し練習	タイム計測（30分）を行いタイム内に入れ仕上がり検定合格レベルまで強化する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第22回	7月3日	アイメイク実習（ブラックアイメイク）	アイメイク実習（相モデル）での練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第23回	7月10日	3級通し練習	タイム計測（30分）を行いタイム内に入れ仕上がり検定合格レベルまで強化する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第24回	7月10日	アイメイク実習（リップメイク）	リップメイク練習を実施し理解する				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第25回	7月17日	3級模擬試験	模擬試験を通じて自分の実力を確認し、改善点を見つける。				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	
第26回	7月17日	3級模擬試験	模擬試験を通じて自分の実力を確認し、改善点を見つける。				JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版	

2025年度シラバス

第27回	7月24日	3級期末試験	3級試験に合格するために必要な知識と技術を身につける。	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版
第28回	7月24日	3級期末試験	3級試験に合格するために必要な知識と技術を身につける。	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版
第29回	7月31日	JMA3級試験	3級試験に合格し、知識と。技術を証明する	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版
第30回	7月31日	JMA3級試験	3級試験に合格し、知識と。技術を証明する	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級改訂版

成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。 21.							
期末試験（50点）：3級試験に必要な知識と技術を評価 小テスト（1回）（20点）：ポイントクレンジング・全体クレンジングに関する理解度を評価 模擬試験（1回）（30点）：試験環境下での技術習得状況を確認 成績判定は検定協会の審査表を基に評価(減点方式) 欠席1回につき -1点(授業への出席状況を考慮)							
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%
①成績判定試験		2位				1位	50
②小テスト（1回）		2位				1位	20
③模擬試験（1回）		2位				1位	20
④授業態度				2位	1位		10
⑤作品							なし
⑥プレゼンテーション							なし
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。						不合格の場合	補修、追試の有無等

シラバス作成者	日隈 朱梨	シラバス承認者	フルネームを記載	授業担当教員	日隈 朱梨
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voicecat/teacher/

更新履歴				
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所	作成者
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				

2025年度シラバス

科目名 ¹	美容実習（ネイル）		学科名 ² （コース名）	美容科（昼間）			学年	³ 学年
授業形態 ⁴	実習	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	国家資格	
教育課程区分 ⁷ 分	必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰	美容師国家試験	
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）	¹¹ 正しいネイルケアの方法と、ネイルを美しく保つ技術と知識を教授する 当該内容は現場での印象管理、接客の際に役立つ							
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）	¹² 当該授業の教育課程における位置付けは学則上の卒業要件であるとともに、将来卒業後に必要な知識、技術として位置づける ネイリスト技能検定試験3急合格相当の知識、技術を身に付ける ベーシックなネイルケア、カラーリング、ネイルアートの技能と知識の基礎を習得する							
受講条件	¹³ 美容科に所属していること							
教科書名	¹⁴ テクニカルシステム ベーシック第4版2025年3月発行 ネイリスト技能検定試験 筆記試験公式問題集				教材名 ¹⁵	オリジナルプリント/ネイル道具一式		
設備名・機器名	¹⁶ 水道				関連サイト ¹⁷	公益社団法人日本ネイリスト検定協会試験センター		
関連前科目	¹⁸ 該当なし				関連後科目 ¹⁹	理論Ⅱ		
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位 ²⁰								
回（コマ）	開講日	授業コマの主題（タイトル）	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		オリエンテーション	授業内容、目標、成績評価について理解する/道具の検品が出来る/テーブルセッティングの持ち物について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第2回		ネイル道具について・ネイル理論1	道具の検品が出来る/テーブルセッティングの持ち物について理解する ネイルの歴史について理解する/ネイルの技術体系について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第3回		ネイル理論2	爪の構造について理解する/爪の構造と働きについて理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第4回		ネイルケア1	基本的なテーブルセッティングについて理解する/用具用材の名称と使用目的、ファイリングの仕方について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第5回		ネイル理論3	ネイルのための皮膚科学について理解する/カットスタイル別ファイリング5種類について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第6回		ネイルケア2	正しいファイリングの扱い方について理解する/ファイルを正しく扱う事ができる				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第7回		ネイル理論4	ネイルのための生理解剖学について理解する/安全メタルプッシャーの扱い方について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第8回		ネイルケア3	キューティクルクリーンする方法について理解する/メタルプッシャーを正しく扱いキューティクルクリーンができる				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第9回		ネイル理論5	爪の病気、トラブルについて理解する/安全なキューティクルニッパーの扱い方について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第10回		ネイルケア4	キューティクルニッパーを用いてキューティクルクリーンする方法を理解する/キューティクルニッパーを正しく扱いキューティクルクリーンが出来る				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第11回		ネイル理論6	消毒法について理解する/ネイルケアの手順について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第12回		ネイルケア5	手順に沿ってネイルケアが出来る				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第13回		ネイル理論7	ネイル検定の要点を理解する/ネイルポリッシュのカラーリング方法について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第14回		ネイルケア6	ネイルポリッシュを用いてカラーリングできる				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第15回		ネイル理論8	ネイル検定学科試験の要点を理解する/正しいネイルカラーリングの手順と方法について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第16回		ネイルケア7	正しい手順に沿ってカラーリングできる				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第17回		ネイル理論9	効率的なネイルカラーリングの方法について理解する/材料の扱い方について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第18回		ネイルケア8	効率的なネイルカラーリングが出来る				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第19回		ネイル理論10	ネイル検定学科試験問題が解ける/安全な道具の扱い方について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第20回		ネイルケア9	ネイルケアカラーの効果を高めることが出来る				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第21回		ネイル理論11	ネイルアート材料の扱い方について理解する/ブラシワークについて理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第22回		ネイルアート1	検定課題のフラワーアートが描ける				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第23回		検定対策1	学科試験問題が解ける/検定試験課題を一連の流れが出来る				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第24回		検定対策2	実技採点の詳細について理解する				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第25回		模擬試験1	筆記模擬試験で合格基準を満たすことが出来る				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	
第26回		模擬試験2	実技試験で合格基準を満たすことが出来る				テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集	

2025年度シラバス

第27回		セルフネイルアート 1	幾何学模様の描き方について理解する/タータンチェックの描き方について理解する	テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集
第28回		セルフネイルアート 2	幾何学模様、タータンチェックがセルフネイルできる	テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集
第29回		成績判定試験 1	成績判定試験	テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集
第30回		成績判定試験 2	成績判定試験	テクニカルシステム ベーシック ネイリスト技能検定試験筆記公式問題集
第 回				

成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。21.

当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。

↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験	2位				1位	40	秀(S):100点~90点
②確認テスト	1位		2位			20	優(A):89点~80点
③課題レポート						なし	良(B):79点~70点
④授業態度			2位	1位		40	可(D):69点~60点
⑤作品						なし	不可(E):59点以下
⑥プレゼンテーション						なし	
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。						不合格の場合	補修、追試の有無等

シラバス作成者	平塚	シラバス承認者		授業担当教員	
				実務経験紹介	

更新履歴

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				

2025年度シラバス

科目名 ¹		美容実習（シャンプー・ヘッドスパ）		学科名 ² （コース名）		美容科（昼）		学年 ³ Ⅰ学年											
授業形態 ⁴		実習		学期		前期		開講年月 ⁵ 4月		該当資格区分 ⁶ 民間検定									
教育課程区分 ⁷		必修		単位数 ⁸ 1		1		時間数 ⁹ 30		該当資格名称 ¹⁰ デミドゥ スカルプコーディネーター									
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）		11 シャンプー、トリートメント、ヘッドスパに関する基礎知識、理論、技術を学び、実際の施術が安全かつ効果的に行えるようになる。																	
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）		12 髪と頭皮の構造と機能を理解する/シャンプー、トリートメント、ヘッドスパの理論と技術を習得する																	
受講条件		13 美容科に在籍している																	
教科書名		14 美容実習Ⅰ						教材名 ¹⁵		DEMIDOヘッドスパマニュアル									
設備名・機器名		16 バックシャンプー台、ドライヤー						関連サイト ¹⁷		17. https://demido.jp/									
関連前科目		18 -なし						関連後科目 ¹⁹		イーラル ヘッドキュア（美容実習 応用）									
20. 授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位																			
回（コマ）		開講日		授業コマの主題（タイトル）		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標					使用教科書・教材								
第1回		4月18日		ガイダンス/授業概要と目的		安全管理の基本説明/シャンプー台の名称と取り扱い方、施術の手順													
第2回		4月25日		頭皮・毛髪の構造と機能 シャワーでの流し方		毛根、皮脂腺、角質層など/シャワーヘッドの使い方と毛髪の流し方													
第3回		5月9日		シャンプーの種類と成分、pH		アニオン界面活性剤について/泡立て方													
第4回		5月16日		シャンプー技術①		プレシャン、予洗について（実践）													
第5回		5月30日		ヘッドスパ（講義）		日本の平均年齢とスパの必要性（座学40分） マッサージポイント実技（実技50分）													
第6回		6月6日		ヘッドスパ（講義）		頭皮理論/スカルプハンドブック（座学45分） シャンプースパ（実技45分）													
第7回		6月13日		トリートメント技術と塗布方法		ホームケアとサロンケアの違い													
第8回		6月20日		ヘッドスパとは		効果/禁忌/歴史													
第9回		6月27日		ヘッドスパの種類と目的別アプローチ		リラクゼーション・育毛など													
第10回		7月4日		ヘッドスパ（講義）		DEMIDO商品勉強会（座学30分） シャンプースパ&ドレナージュスパ（実技60分）													
第11回		7月11日		ヘッドスパ（実践）		頭皮診断・カウンセリング（実技40分） シャンプースパ&ドレナージュスパ（実技60分）													
第12回		7月18日		シャンプー、トリートメント（実践）		相モデルで実践													
第13回		7月25日		ヘッドスパ（検定）		スカルプ理論テスト（座学25分） 実技テスト（実技65分）													
第14回		7月29日		総合実習		シャンプー、トリートメント、ヘッドスパの技術チェックと相互評価													
第15回		9月5日		総合実習		実習（相互評価）と今後の課題提示													
第 回																			
21. 成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。																			
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分（加点式or減点式）・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。																			
↓判定方法\該当する観点→				知識・理解		思考・判断		関心・意欲		態度		技能・表現		評価配分%		成績評価基準			
①成績判定試験																秀（S）：100点～90点			
②確認テスト																優（A）：89点～80点			
③課題レポート																良（B）：79点～70点			
④授業態度				1位				2位		3位						可（D）：69点～60点			
⑤作品																不可（E）：59点以下			
⑥プレゼンテーション																			
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。														不合格の場合		補修、追試の有無等			
シラバス作成者		小林昌子		シラバス承認者		山根大助		授業担当教員		石田美紀									
								実務経験紹介		https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/ishida/									
更新履歴																			
シラバス更新履歴				更新理由				更新箇所				作成者				Check者（確認者）			
改1																			
改2																			
改3																			
改4																			
改5																			

2025年度シラバス

科目名	美容実習（ヘアアレンジ）		学科名 （コース名）	美容科			学年	1学年
授業形態	実習	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	国家検定	
教育課程区分	必修	単位数	1	時間数	15時間	該当資格名称	美容師国家試験	
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）	本科目は、ヘアアレンジの技術を基礎から応用まで幅広く学び、お客様のニーズやシーンに合わせたスタイルを作成できる力を養うことを目的とします。シーンに応じたヘアスタイルの選定、技術、そして仕上げの技術までを身に付け、実習を通じて実際のサロンワークに必要なスキルを磨きます。また、ヘアアレンジに必要な創造力を養い、個々のお客様に最適なヘアスタイルを提供できる技術力を習得します。							
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）	当該科目は、美容分野における基本的な技術から応用まで幅広く学ぶことを目的とし、特にヘアスタイルの選定やアレンジ技術を実践的に習得することに重点を置いています。科目を通じて、学生はお客様のニーズに合わせたスタイルの提供ができる能力を養い、最終的にサロンワークや実際の顧客対応に必要なスキルを身に付けます。							
受講条件	美容科に在籍している							
教科書名	該当なし				教材名	VICオリジナル教材		
設備名・機器名	該当なし				関連サイト	該当なし		
関連前科目	該当なし				関連後科目	該当なし		

授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位

回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標	使用教科書・教材
第1回	4月17日	道具の種類と使用法、頭部名称の理解	道具を理解し、使用方法を確認。 ヘアスタイリングに使う道具や頭部の名称を理解し、基本的な技術に繋げる。	VICオリジナル教材
第2回	4月24日	黒ゴムの準備・1速結び	髪をまとめるためのゴム準備と基本的な結び方を習得し、実践的に使用する。	VICオリジナル教材
第3回	5月8日	コテの使い方（フォワード・リバース）	コテの基本的な使い方（フォワード、リバース巻き）を理解し、実践技術を習得。	VICオリジナル教材
第4回	5月15日	ホットカーラーのブロッキング・巻き方	ホットカーラーを使った巻き方とブロッキング技術を理解し、応用する。	VICオリジナル教材
第5回	5月22日	三つ編み・編み込みの基本理解	三つ編みと編み込み（表・裏）の基本的な編み方を理解し、実践的に習得。	VICオリジナル教材
第6回	5月29日	三つ編み・編み込みを使った編みおろし創作	三つ編み・編み込みを使い、オリジナルの編みおろしスタイルを創作する。	VICオリジナル教材
第7回	6月5日	編み込み・編み込みを使ったスタイル作成（コテ巻き）	コテ巻きと編み込みを組み合わせたオリジナルスタイルを作成し、技術を深める。	VICオリジナル教材
第8回	6月12日	編み込み・編みおろし小テスト	三つ編み・編み込みを駆使してオリジナルの編みおろしスタイルを30分以内で完成させ、技術的な正確さと創造性を評価する。	VICオリジナル教材
第9回	6月19日	ピン止め・逆毛・ブラシ・コーム	ピンの止め方・逆毛の立て方・ブラシの入れ方・コームの入れ方について理解する	VICオリジナル教材
第10回	6月26日	夜会巻きスタイル作成（1回目）	夜会巻きスタイルの基本技術を理解し、実際に作成して技術を習得する。	VICオリジナル教材
第11回	7月3日	夜会巻きスタイル作成（2回目）	夜会巻きスタイルの実践的な作成技術を再確認し、完成度を高める。	VICオリジナル教材
第12回	7月10日	1束、編み込み、夜会巻きを入れたスタイル作成	スタイリング剤を選び、スタイルのバランスを取る技術を実践で学ぶ。	VICオリジナル教材
第13回	7月17日	夜会巻きスタイル小テスト	夜会巻きスタイルを30分以内で作成し、実践的な技術を試験で確認する。	VICオリジナル教材
第14回	7月24日	オリジナルデザインスタイル作成	編み込みとコテ巻きをうまく組み合わせてオリジナルスタイルを創作する。	VICオリジナル教材
第15回	7月31日	前期期末試験	前期に学んだ内容をまとめ、技術や理論を確認する試験の実施する。	VICオリジナル教材

成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。

①成績判定試験（60%）
実技試験と期末試験においての技術と理論的な理解度を重視。技術的な正確さ、創造力、完成度などを評価。

②確認テスト（30%）
小テストにおける知識や基本技術の確認を重視。基本的な技術や理論の理解度を測る。

③授業態度（10%）
授業への積極的な参加態度や学習に対する意欲を評価。欠席、遅刻、授業中の発言や取り組み状況など。
1回欠席につき－1点

↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験	2位				1位	60	秀（S）：100点～90点
②小テスト	2位				1位	30	優（A）：89点～80点
③課題レポート						なし	良（B）：79点～70点
④授業態度		2位	1位			10	可（D）：69点～60点
⑤作品						なし	不可（E）：59点以下
⑥プレゼンテーション						なし	
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。						不合格の場合	補修、追試の有無等

シラバス作成者	日隈 朱梨	シラバス承認者	フルネームを記載	授業担当教員	日隈 朱梨
				実務経歴紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voicecat/teacher/

更新履歴

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				

2025年度シラバス

科目名 ¹	サービス接遇		学科名 (コース名) ²	美容科 (昼間)			学年	³ I学年
授業形態 ⁴	講義	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	民間検定	
教育課程区分 ⁷	選択	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		¹¹ 顧客満足を高めるためのコミュニケーションスキルと対応力を体系的に身につける事ができる、サービス業全般で活かせる検定の取得を目指す。						
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		¹² サービス接遇の基本的な考え方や目的を理解し、適切な接遇の重要性を説明できる。 敬語や言葉遣い、表情、態度など、接客時に必要な基本的なマナーを身につけ、実践できる。						
受講条件		¹³ 美容科に入学していること						
教科書名		¹⁴ サービス接遇検定3級 公式テキスト			教材名 ¹⁵	オリジナル資料等		
設備名・機器名					関連サイト ¹⁷			
関連前科目		¹⁸			関連後科目 ¹⁹			
²⁰ 授業計画 (授業コマ単位) 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	1コマの主題(タイ時間)ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材		
第1回	4月17日	オリエンテーション サービススタッフの資質・1	サービススタッフに求められる基本的な資質 (思いやり、誠実さ、責任感など)を理解し、それぞれの意味を説明できる				サービス接遇検定用テキスト	
第2回	4月24日	I サービススタッフの資質・2	接遇の場面において、相手の立場に立った思考や行動ができるようになる。				サービス接遇検定用テキスト	
第3回	5月8日	II 専門知識/III 一般知識	接遇の基本概念 (サービスの定義、ホスピタリティの考え方) を正しく理解し、説明できる				サービス接遇検定用テキスト	
第4回	5月15日	IV 対人関係・1	接遇において求められる対人関係の基本 (信頼、共感、敬意) を理解し、その重要性を説明できる				サービス接遇検定用テキスト	
第5回	5月22日	IV 対人関係・2	相手の立場に配慮したコミュニケーション (表情、言葉、態度) を実践できる				サービス接遇検定用テキスト	
第6回	5月29日	V 実務技能	接遇の基本動作 (挨拶、表情、姿勢、大尉振る舞い) を理解し、適切に実践できる				サービス接遇検定用テキスト	
第7回	6月5日	模擬試験 2回分	検定合格基準に達するよう2回実施				サービス接遇検定用テキスト	
第8回	6月12日	模擬試験 2回分	検定合格基準に達するよう2回実施				サービス接遇検定用テキスト	
第9回	6月19日	検定試験 解説	検定の振り返り				サービス接遇検定用テキスト	
第10回	6月26日	店舗運営はチームワーク	店舗運営における接遇の役割と重要性を理解し、顧客満足との関係を説明できる				サービス接遇検定用テキスト	
第11回	7月3日	POP表現・1	ポップ表現においても接遇の基本 (思いやり、丁寧さ、顧客目線) が重要であることを理解する。				サービス接遇検定用テキスト	
第12回	7月10日	POP表現・2	相手の立場に立った言葉遣いや、親しみやすさ、安心感を与える表現をポップに反映できる				サービス接遇検定用テキスト	
第13回	7月17日	紙袋 丁寧な手渡し	丁寧な手渡しの意味と、その背景にある接遇の考え方 (相手への敬意、配慮) を理解する				サービス接遇検定用テキスト	
第14回	7月24日	名刺 名刺の渡し方	名刺交換の目的とビジネスにおける意味 (第一印象、信頼構築の第一歩) を理解する				サービス接遇検定用テキスト	
第15回	7月31日	期末試験	まとめ				サービス接遇検定用テキスト	
第 回								
²¹ 成績評価方法 (当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) …「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。								
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。 ②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。 ③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加点式or減点式)・時間配分なども明記すること。 ④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。 ⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験								秀 (S) : 100点～90点 優 (A) : 89点～80点 良 (B) : 79点～70点 可 (D) : 69点～60点 不可 (E) : 59点以下
②確認テスト								
③課題レポート								
④授業態度								
⑤作品								
⑥プレゼンテーション								
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等
シラバス作成者	城戸	シラバス承認者		授業担当教員				
				実務経験紹介				
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所			作成者	Check者(確認者)	
改1								
改2								
改3								
改4								
改5								

2025年度シラバス

科目名 ¹	美容実習（国家試験課題カット）		学科名 （コース名） ⁴	美容科(昼)			学年 ³	2学年
授業形態 ⁴	実習	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分 ⁵	国家資格	
教育課程区分 ⁷	必修	単位数 ⁸	2	時間数 ⁹	60	該当資格名称 ¹	美容師国家試験	
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）	¹ 美容師実技試験、美容技術（第1課題カッティング）における試験課題の作成方法について正しく理解し必要な知識と技能をしっかりと身につける。							
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）	¹ 試験課題スタイルを国家試験練習用のモデルウィッグにて40分以内でカットする。							
受講条件	¹ 美容実習（カット基礎）の単位履修							
教科書名	¹ 美容師技術試験課題「技術の解説」第6版				教材名 ¹	オリジナルプリント		
設備名・機器名	¹ テーブル、モニター				関連サイト ¹	理容師美容師試験研修センター https://www.rbc.or.jp/		
関連前科目	¹ 美容実習（カット基礎）				関連後科目 ¹	美容実習（国家試験課題 総合Ⅱ）		
授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位 ²								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回	①4月16日 ②4月17日	スタイルの概要	国家試験課題のスタイルを理解し、作成に必要なブロッキングができる。					
第2回		ブロッキング、ガイドライン	ブロッキング、ガイドラインを2分以内にできる。					
第3回	①4月23日 ②4月24日	ガイドラインのカッティング	ガイドラインの切り方を理解しカットする。					
第4回		第3ブロックのカッティング	ガイドラインと第3ブロックの切り方、つなぎ方を理解しカットする。					
第5回	①5月7日 ②5月8日	第1ブロックのカッティング	第1ブロックを理解しセიმレングスカットをする。					
第6回		第2ブロックのカッティング	第2ブロックを理解し、セიმレングスカットからレイヤーカットに変化させながらカットする。					
第7回	①5月14日 ②5月15日	フロントのカッティング	前髪の幅、長さを理解し指定通りにカットする					
第8回		サイドのカッティング	フロントとサイドのフェイスラインをつなぎ、フェイスラインとトップをカットする。					
第9回	①5月21日 ②5月22日	ブロッキング、バックの復習	ブロッキングをとるところから第1～3ブロックまでをカットする。					
第10回		フロント、サイド復習	フロントをカットしフェイスラインをつくりサイドをカットする。					
第11回	①5月28日 ②5月29日	全頭カット①	12cm・フロント8cmの条件にて全頭をカットする。					
第12回		全頭カット②	10cm・フロント6cmの条件にて全頭をカットする。					
第13回	①6月4日 ②6月5日	仕上がりチェック、シザーワーク	10cm(前髪6cm)の仕上がりの確認 全頭6cmで早切り練習					
第14回		全頭カット③	14cm・前髪10cmで全頭のカット手順を復習（2体目配布）					
第15回	①6月18日 ②6月19日	全頭カット⑥	12cm・8cmで全頭50分でカットできる					
第16回		審査範囲の確認と審査	審査範囲と条件を理解し・グループで審査範囲の技術確認をする。					
第17回	①6月25日 ②6月26日	カット手順復習・期末試験について	全頭のカット手順の復習、期末試験の採点項目説明（技術・衛生）					
第18回		全頭カット	60分タイム計測、グループでの審査（技術確認）					
第19回	①7月2日 ②7月3日	全頭カット	60分タイム計測、採点項目の確認					
第20回		全頭カット	技術確認と修正					
第21回	①7月9日 ②7月10日	全頭カット	50分タイム計測、採点項目の確認					
第22回		全頭カット	技術確認と修正					
第23回	①7月23日 ②7月24日	全頭カット	50分タイム計測、採点項目の確認					
第24回		全頭カット	技術確認と修正					
第25回	①7月30日 ②7月31日	全頭カット	40分タイム計測、採点項目の確認					
第26回		全頭カット	技術確認と修正					
第27回	①8月6日 ②8月4日	全頭カット	40分タイム計測、採点項目の確認					
第28回		全頭カット	技術確認と修正					
第29回	①② 8月7日	期末テスト	国家試験課題のスタイルを40分でカッティング					
第30回		期末テスト						
成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。								
①技術期末試験【配点90%】国家試験の審査項目と配点に準ずる（プラス・マイナス2cm以上の誤差にて減点） ④授業態度【配点10%】1コマ欠席につき（-1点）、授業中に2回注意を受けた場合（-3点）								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①技術期末試験		2位				1位	90	秀（S）：100点～90点

2025年度シラバス

②確認テスト							優（A）： 89点～80点
③課題レポート							良（B）： 79点～70点
④授業態度				1 位		10	可（D）： 69点～60点
⑤作品							不可（E）:59点以下
⑥プレゼンテーション							
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合 補修、追試の有無等

シラバス作成者	福井純子	シラバス承認者	山根大助	授業担当教員	福井純子、岡田琴子
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/

更新履歴

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				

2025年度シラバス

科目名 ¹	美容実習（国家試験課題総合Ⅰ）			学科名（コース名） ²	美容科			学年 ³	2学年
授業形態 ⁴	実習		学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	国家資格	
教育課程区分 ⁷	必修		単位数 ⁸	2	時間数 ⁹	60	該当資格名称 ¹⁰	美容師国家試験	
科目の概要（全コマ数を俯瞰して）		国家試験課題第二課題の7段構成を理解すること。各段に入るピンカールの仕上がり状態を理解すること。ピンギの条件を理解すること。							
科目の到達目標（教育課程の位置づけ）		ノーバート7段構成を30分以内に仕上げる 国家試験合格レベルに相当する作品を仕上げる							
受講条件		美容実習（ウェーブ）の単位履修							
教科書名		美容実習Ⅰ				教材名 ¹⁵	美容師実技課題試験「技術の解説」		
設備名・機器名		テーブル、モニター				関連サイト ¹⁷	理容師美容師試験研修センターhttps://www.rbc.or.jp/		
関連前科目		美容実習（ウェーブⅠ）				関連後科目 ¹⁹	美容実習（国家試験課題総合Ⅱ）		
授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位									
回（コマ）	開講日		授業コマの主題（タイトル）	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
	1組	2組							
第1回	4月14日	4月16日	AWウィッグのカットとパーマ	4月14日（AM）1組…応用実習の時間内でAWのウィッグカット⇒午後からパーマ 4月14日（PM）2組…応用実習の時間内でAWのウィッグカット⇒16日にパーマ				※1回で2コマ分	
第2回	5月19日	5月21日	1年次の復習とタイム取り	1～4段目までのウェーブとピンカールを含めた構成の見直しと4段目まで15分間で作成し、5段目以降のウェーブ幅と左右の繋がりが出来、10分間で作成できる。				オリジナルの7段構成のプリント	
第3回	6月2日	6月4日	5段目以降のピンカール①	5段目リフトカールの手順を理解し、5ケのループの大きさ、ピンギの方向が整っている状態。1ケ1分のタイム内で作ることが出来る。					
第4回	6月9日	6月18日	5段目以降のピンカール②	5段目のピンカールの復習をし、1ケ40秒で作成する事ができる。 6段目のピンカールの作成手順と1ケ1分で作成することが出来る。					
第5回	6月16日	6月25日	5段目以降のピンカール③	5段目、6段目のピンカールの復習をし、1ケ30秒で作成する事ができる。 7段目のピンカールの作成手順を理解し、1ケ1分で作成する事ができる。					
第6回	6月23日	7月2日	7段構成の見直し①	1～7段目の構成が理解出来ているか確認 全頭35分以内で出来るようにタイム取りを実施					
第7回	6月30日	7月9日	7段構成の見直し②	1～5段目までの小テストを実施（タイム20分以内） 6段目以降は、復習とタイム取りを実施。					
第8回	7月14日	7月23日	7段構成の見直し③	1～7段目の構成が理解出来ているか確認 全頭35分以内で出来るようにタイム取りを実施					
第9回	7月28日	7月30日	全頭タイム取りと構成の見直し①	1～7段目の構成が理解出来ているか確認 全頭35分以内で出来るようにタイム取りを実施					
第10回	8月4日	8月6日	全頭タイム取りと構成の見直し②	1～7段目の構成が理解出来ているか小テストを実施（全頭35分） ピンカールの仕上がり、ウェーブの幅など苦手箇所の練習とタイム取りを実施					
第11回	8月25日	8月27日	全頭タイム取りと構成の見直し③	全頭33分で仕上げられること。					
第12回	9月1日	9月1日	全頭タイム取りと構成の見直し④	全頭32分で仕上げられること。				3コマ	
第13回	9月3日	9月3日	全頭タイム取りと構成の見直し⑤	全頭31分で仕上げられること。				3コマ	
第14回	9月4日	9月4日	試験前対策①	全頭30分で仕上げられること。 期末試験を前提にタイム計測を実施。				3コマ	
第15回	9月4日	9月4日	試験前対策②	全頭30分で仕上げられること。 期末試験を前提にタイム計測を実施。					
第 回			期末試験	全頭30分で7段構成を作成。					
成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。									
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分（加減式or減減式）・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。									
↓判定方法\該当する観点→			知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験			1					90	秀（S）：100点～90点
②確認テスト			2					5	優（A）：89点～80点
③課題レポート									良（B）：79点～70点
④授業態度					1	2		5	可（D）：69点～60点
⑤作品									不可（E）：59点以下
⑥プレゼンテーション									
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。								不合格の場合	補修、追試の有無等
シラバス作成者	小林昌子		シラバス承認者	山根大助		授業担当教員	石田美紀		
						実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/ishida/		
更新履歴									
シラバス更新履歴			更新理由	更新箇所			作成者	Check者（確認者）	
改1									
改2									
改3									
改4									
改5									

科目名	美容実習(国家試験課題 総合Ⅱ)			単位数	6	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	国家試験で定められた課題を作成し、合格レベルまで反復演習を行う。 衛生面での取りあつかい							
授業の一般目標	国家試験実技課題の知識と技術を身に付け試験に合格できる能力を身につける 第一課題→カット 第二課題→ウェーブorワインディング							
受講条件	美容科2年生							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習1 美容技術理論1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	カット、ワインディング、オールウェーブセッティングの構成、仕上がりをはっきり理解していること。							
□ 思考・判断の観点								
□ 関心・意欲の観点								
□ 態度の観点	身だしなみを整え、衛生的な作業をする。							
□ 技能・表現の観点	国家試験の技術の条件に合わせたカット、ワインディング、オールウェーブセッティングを指定時間内に完成させている。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1～6回	概要			国家試験課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)の技術の条件を理解・確認する。				
第7～12回	1年生時の復習			1年生時課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)を完成させる。				
第13～18回	リフトカール			4段目の中央3分の1のところに、リフトカールを作る。				
第19～24回				リフトカールの特徴を理解し、作成する。				
第25～30回								
第31～36回				5段目の中央3分の1のところに、逆リフトカールを作る。				
第37～42回	逆リフトカール			逆リフトカールの特徴を理解し、作成する。				
第43～48回								
第49～54回	メイボールカール			5段目の中央3分の1のところに、逆リフトカールを作る。				
第55～60回				逆リフトカールの特徴を理解し、作成する。				
第61～66回								
第67～72回	オールウェーブセッティング 7段構成			決められた時間で、国家試験課題を完成させる。			60分以内	
第73～79回							50分以内	
第80～86回							40分以内	
第87～92回							30分以内	
第93～98回							30分以内	
第99～104回	センターの復習とタイム取り			オンベースに収まる部分と1/2オフベースに収まる箇所の確認とセンター1本20秒でタイム取り				
第105～110回	フロント～フロントサイド(右)の復習とタイム取り			スライスの取り方、ロッドの収まり方を確認し、1本20秒でタイム取りを行う				
第111～116回	バックサイド(右)の復習とタイム取り			スライスの取り方、ロッドの収まり方を確認し、1本20秒でタイム取りを行う				
第117～122回	フロントサイド(左)の復習とタイム取り			スライスの取り方、ロッドの収まり方を確認し、1本20秒でタイム取りを行う				
第123～128回	バックサイド(左)の復習とタイム取り			スライスの取り方、ロッドの収まり方を確認し、1本20秒でタイム取りを行う				
第129～134回	フロント、フロントサイド(左右)の確認			シンメトリーを意識して、スライスやおさまりを行っているか、タイム内を目指して行っているか				
第135～140回	バックサイド(左右)			シンメトリーを意識して、スライスやおさまりを行っているか、タイム内を目指して行っているか				
第141～146回	全頭タイム取り			全頭20分以内で行う				
第147～152回	全頭タイム取り			全頭20分以内で行う				
第153～158回	ブロッキングの取り方とブロッキングのタイム取り			ブロッキングの取り方の復習とタイム取り 2分間でブロッキングを行う				
第159～164回	ガイドカットとつながり			計測ポイントと長さの確認とガイドの繋ぎ、カットラインの復習				
第165～170回	セクションカット			第3セクションのカット手順とパネルの引き出す方向、カットラインの復習				
第171～176回	セクションカット			第1セクションのカット手順とパネルの引き出す方向、カットラインの復習				
第177～182回	セクションカット			第2セクションのカット手順とパネルの引き出す方向、カットラインの復習				
第183～188回	フロントセクション、サイドセクション			フロント、サイドセクションのカット手順とパネルの引き出す方向、カットラインの復習				
第189～194回	全頭確認をしながら、タイム取り			全頭を25分でカット				
第195～200回	全頭タイム取り			全頭20分でカット				
成績評価方法								
単位認定60点以上 模擬国家試験(国家試験規定に準じ評価を行う)								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容総合（筆記対策Ⅰ）			単位数	2	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	国家試験5科目に於ける対策授業							
授業の一般目標	国家試験学科の合格							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	香粧品化学 美容保健 関係法規・制度 衛生管理 美容技術理論 ワークブック 過去問題集							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	美容技術理論①			教科書①を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第2回	美容技術理論②			教科書②を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第3回								
第4回	美容保健②			教科書（皮膚科学）を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第5回				教科書（香粧品、化学）を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第6回	香粧品化学②			教科書（香粧品、化学）を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第7回	衛生管理①			教科書（公衆衛生、環境衛生）を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第8回	衛生管理②			教科書（感染症）を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第9回	関係法規・制度①			教科書（法制度、衛生行政の概要）を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第10回	関係法規・制度②			教科書（美容師法）を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第11回	美容技術理論③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第12回	美容技術理論④			前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第13回	美容技術理論⑤			過去問題を解き、解答で確認する				
第14回	美容保健③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第15回	美容保健④			前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第16回	美容保健⑤			過去問題を解き、解答で確認する				
第17回	香粧品化学③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第18回	香粧品化学④			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第19回	香粧品化学⑤			前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第20回	香粧品化学⑥			過去問題を解き、解答で確認する				
第21回	衛生管理③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第22回	衛生管理④			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第23回				前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第24回				過去問題を解き、解答で確認する				
第25回	関係法規・制度③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第26回	関係法規・制度④			前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第27回	関係法規・制度⑤			過去問題を解き、解答で確認する				
第28回	5教科総合演習①			5教科過去問題を解き、解答で確認する				
第29回	5教科総合演習②			5教科過去問題を解き、解答で確認する				
第30回	5教科総合演習③			5教科過去問題を解き、解答で確認する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

2025年度シラバス

科目名 ¹	ヘアケアマイスター		学科名 (コース名) ²	美容科 (昼)		学年	2学年
授業形態 ⁴	講義	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	民間検定
教育課程区分 ⁷	選択	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	15	該当資格名称 ¹⁰	日本ヘアケアマイスター協会 ヘアケアマイスター認定試験 プライマリーコース
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	11 毛髪の現状、技術内容、毛髪科学、カウンセリング知識、ヘアケア剤の知識 当該内容は現場でのお手入れ説明の際に役立つ						
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	12 当該科目の教育課程における位置づけは美容師国家試験受験のための必須な美容実習の一部であるとともに、将来卒業後に必要な知識・技術として位置づける。 毛髪診断が正しく出来る、毛髪診断に対する処遇・アドバイスが的確に出来る、ヘアケアマイスター認定試験プライマリーコース試験合格相当の知識・技術を身につける						
受講条件	13 美容技術理論Ⅰ 保健Ⅰ 履修済み						
教科書名	14 ヘアケアマイスターブック 第4版 第2刷 日本ケアマイスター協会 (発行所) 立川智宏 (発行者)			教材名 ¹⁵	15 教員作成のパワーポイント/ヘアケアマイスター認定試験過去問題集		
設備名・機器名	16 教材投影用プロジェクター・PC (教員用)			関連サイト ¹⁷	17 http://www.jhcma.or.jp/		
関連前科目	18 美容技術理論Ⅰ 保健Ⅰ			関連後科目 ¹⁹	19 なし		

授業計画 (授業コマ単位) 学科: 15コマ以上目単位、実習・演習: 30コマ以上/単位 20.

回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標	使用教科書・教材
第1回		毛髪化学① 構造と働き メラニン色素 キューティクル	毛髪の構成要素(メラニン色素、キューティクル)の構造と働きを理解し、選択問題を解くことができる	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第2回		毛髪化学② 細胞膜複合体の構造と役割 コルテックス メデュラについて	毛髪の構成要素(細胞膜複合体、コルテックス、メデュラ)の構造と働きを理解し、選択問題を解くことができる / 確認テスト①の実施	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第3回		毛髪化学③ 毛髪におけるタンパク質とは	髪の強度や弾力性を保つために必要なタンパク質の種類と性質を理解し、空欄記述式の問題を解くことができる	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第4回		毛髪化学④ pHと毛髪について	pHについて学び、pHと毛髪の健康について理解する 毛髪の結合(結合の切断、再結合)について理解し、選択問題を解くことができる	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第5回		毛髪化学⑤ 毛髪のダメージの原因とそのプロセス	毛髪ダメージの種類を理解し、選択問題を解くことができる ダメージのプロセスを説明することができる 確認テスト②実施	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第6回		毛髪のカウンセリング① カウンセリングとは	毛髪カウンセリングに必要な、敬語、マナー、コミュニケーション能力はどのようなものかディスカッションする	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第7回		毛髪のカウンセリング② 察知と要望	前回授業を思い出し、ペアワークにてお客様の悩みをどのように察知するか、どのように的確な提案をするかを理解してペアワークで実践する	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第8回		毛髪のカウンセリング③ 毛髪を見極める 問診・視診・触診	カウンセリング理論(問診・視診・触診)を学び、オリジナルカウンセリングシートを用いて、ペアワークでカウンセリングを行う	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第9回		毛髪のカウンセリング④ 髪質の特徴と性質 くせ毛について	くせ毛の特徴や性質を正確に理解し、個々の髪質に基づいて適切なケアやスタイリング方法を理解する / 確認テスト③の実施	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第10回		毛髪のカウンセリング⑤ 毛髪のダメージについて	ダメージレベルを理解し、空欄記述式の問題を解くことができる	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第11回		毛髪のカウンセリング⑥ 技術プロセスにおける前後処理について	毛髪の健康状態を理解し、説明することができる 毛髪の前処理について理解し、説明することができる / 確認テスト④の実施	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第12回		ヘアケア剤① 界面活性剤 シャンプートリートメント剤の働きと効果	界面活性剤の基礎知識を理解し特性と用途を説明できるようになり、シャンプーおよびトリートメントの効果的な組み合わせを提案できるようになる。	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第13回		ヘアケア剤② スタイリング剤の成分と働き効果	スタイリング剤の成分がどのように働くのかを理解し髪質やスタイルに応じたスタイリング剤の適切な製品を提案できるようになる。 / 確認テスト⑤の実施	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第14回		演習	演習を行い、基礎知識の習得: 髪の構造や成長に関する基本的な知識を理解し、さまざまな髪質について説明ができ、ダメージ理解と対策、製品の知識、健康な頭皮の促進を理解し、空欄記述式、記述式、選択問題を解くことができる	ヘアケアマイスターブック第4版・授業用プリント
第15回		成績判定試験	第1章～第3章までの内容で50問出題、5択の選択問題	期末試験問題と解答用紙

成績評価方法 (当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) ...「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。

成績判定: 出席率80%以上及び、①成績判定試験(50問5択の選択問題 試験時間60分間) ②計5回の小テスト実施 ③授業態度 21.
蒸気評価項目の各点数を下表の評価配分%にて按分し、総合点60点以上を合格とする

↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験	1 位					80	秀 (S) : 100点～90点
②確認テスト	2 位					10	優 (A) : 89点～80点
③課題レポート						なし	良 (B) : 79点～70点
④授業態度			2 位	1 位		10	可 (D) : 69点～60点
⑤作品						なし	不可 (E) :59点以下
⑥プレゼンテーション						なし	
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。						不合格の場合	再試験の実施

シラバス作成者	小林 昌子	シラバス承認者	山根 大助	実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kobayashi/
---------	-------	---------	-------	--------	---

更新履歴									
シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)					
改1									
改2									
改3									
改4									
改5									
改5									

科目名	ヘアデザイン専攻Ⅰ（専攻授業）			単位数	2	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	IMAIメソッド（スパシャンプー、スパベーション）ディプロマ取得							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	IMAIメソッド参考プリントにて手技復習・相モデル練習							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	スパシャンプー	頭皮を傷めないシャンプー技法					IMAIメソッド シャンプーコース	
第2回	スパシャンプー	頭皮のクレンジングマッサージ						
第3回	スパシャンプー	フィッティング法を学び血液循環を促す						
第4回	スパベーション	呼吸に沿ったリズムへのマッサージ効果と肌に密着できるスキんシップ技術を学ぶ					IMAIメソッド スパベーションコース	
第5回	スパベーション	マッサージ効果のする体幹、腕、手のひら、指の使い方						
第6回	スパベーション	頭皮診断基礎						
第7回	スパベーション	スカルブマッサージ技法（基礎）						
第8回	スパベーション	クレンジングの揉み出し技法						
第9回	スパベーション	緊張と緩和的技法						
第10回	スパベーション、ハンドマッサージ	ブラッシングの基礎						
第11回	スパベーション	振り返り（まとめ）						
第12回	スパベーション	ディプロマ試験						
第13回	ポリカ カット基礎	体幹トレーニング、姿勢、体の使い方					ポリカ教材使用	
第14回	ポリカ カット基礎	ポリカウィッグの仕組みを知りカットトレーニング						
第15回	ポリカ カット基礎	ポリカウィッグでベーションカットスタイル作成						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	柳原 優志			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/yanagihara/			

科目名	ヘアデザイン専攻Ⅱ（専攻授業）			単位数	4	科目コード			
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	・よりお客様からもニーズがあり、サロンで活用できるクオリティの高いカット技術の知技を身につける。 ・JHCAダブルスター検定試験合格を目標とする。								
授業の一般目標	ホイルワーク技術、必要性を学ぶ。								
受講条件	美容科2年生に在籍								
事前学習について （テキスト・参考書等）	JHCAヘアカラー入門 改訂版								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 正しいセクショニング、チップ、が取れる 2.正しいホイルワークができる								
□ 思考・判断の観点									
□ 関心・意欲の観点									
□ 態度の観点	積極的に技術向上のために動ける								
□ 技能・表現の観点									
授業計画(全体)									
授業計画(授業単位)									
回	主 題	授 業 内 容	備考	回	主題	授業内容	備考		
第1回	JHCAダブルスター	ダブルスター検定について	4月23日	第3回	スタイルの制作	テーマに沿ったスタイル制作	5月7日		
第2回				第4回					
第5回	スタイルの制作	テーマに沿ったスタイル制作	5月7日PM	第7回	スタイルの制作	テーマに沿ったスタイル制作	5月14日		
第6回				第8回					
第9回	スタイルの制作	テーマに沿ったスタイル制作	5月21日	第11回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、チップの取り方	5月21日		
第10回				第12回					
第13回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、チップの取り方 復習	5月28日	第15回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、ウィーピング	5月28日		
第14回				第16回					
第17回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング復習	6月4日	第19回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング復習	6月18日		
第18回				第20回					
第21回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、ウィーピング	6月18日	第23回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング復習	6月25日		
第22回				第24回					
第25回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、ウィーピング	6月25日	第27回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング復習	7月2日		
第26回				第28回					
第29回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、ウィーピング	7月2日	第31回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング復習	7月9日		
第30回				第32回					
第33回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング （フリーテ使用）	7月9日	第35回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング復習	7月23日		
第34回				第36回					
第37回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、ウィーピング 学科	7月23日	第39回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング、学科 復習	7月30日		
第38回				第40回					
第41回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、ウィーピング 学科	7月30日	第43回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング、学科 復習	8月27日		
第42回				第44回					
第45回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、ウィーピング	8月27日	第47回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング復習	9月3日		
第46回				第48回					
第49回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 セクショニング、ウィーピング 学科	9月3日	第51回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング、学科 復習	9月10日		
第50回				第52回					
第53回	JHCA（ダブルスター）	JHCA授業 模擬試験	9月10日	第55回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング、学科 復習	9月17日		
第54回				第56回					
第57回	JHCA（ダブルスター）	セクショニング、ウィーピング、学科 復習	9月24日	第59回	JHCA（ダブルスター）	検定	9月24日		
第58回				第60回					
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上									
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合		成績評価基準
定期試験									S(4):90点以上
小テスト	◎						1		A(3):80点以上
宿題授業外レポート									B(2):70点以上
授業態度	◎			◎			9		C(1):60点以上
発表・作品									D:59点未満 未修得
演習									
出席				◎			欠格条件		
担当教員	石田 美紀			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/ishida/				

2025年度シラバス

科目名 ¹	美容実習		学科名 (コース名) ²	美容科			学年 ³	1学年
授業形態 ⁴	実習	学期	後期	開講年月 ⁵	10月	該当資格区分 ⁶	国家検定	
教育課程区分 ⁷	必修	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	15時間	該当資格名称 ¹⁰	美容師国家試験	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	メイクに強いスタイリストになる為、イメージメイク、ショーメイク、撮影用メイクを学ぶ							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	イメージを形にできる能力を身に付けコンテスト、ヘアショーの作品制作に活かす							
受講条件	美容科に在籍している							
教科書名 ¹⁴	JMAメイク検定2級テキスト				教材名 ¹⁵	JMAメイク検定2級テキスト		
設備名・機器名 ¹⁶	メイク道具一式				関連サイト ¹⁷	参考となる引用、関連するページタイトル/URL		
関連前科目 ¹⁸	美容実習(メイク)				関連後科目 ¹⁹	メイクブライダル専攻Ⅱ		
授業計画(授業コマ単位) 学科:15コマ以上目単位、実習・演習:30コマ以上/単位 20.								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		フォトコンテストについて	フォトコンテストの概要説明・テーマに沿った作品制作の構成を考える					
第2回		フォトコンテストについて	前回の続き・テーマに沿った作品制作の構成を考える					
第3回		撮影メイク	フォトコンテストのメイク・撮影に向けての準備の実施					
第4回		フォトコンテストの撮影日	準備・撮影					
第5回		フォトコンテスト写真確認	写真確認セレクト日・撮影予備日					
第6回		検定対策(ポイントメイク基礎)	ポイントクレンジング～ベースメイク、チーク、ローライト、ハイライトの3級範囲を復習し手技を確認する					
第7回		検定対策(ポイントメイク基礎)	ポイントクレンジング～アイブロウ、アイシャドウ、アイライナーの新しい分野の技術を習得する					
第8回		検定対策(ポイントメイク基礎)	アイライナー復習・ビューラー・マスカラ・リップの新しい分野の技術を習得する					
第9回		検定対策	JMA技術検定2級試験 模擬試験					
第10回		検定対策	JMA技術検定2級試験 模擬試験					
第11回		検定対策	JMA技術検定2級試験 模擬試験					
第12回		JMA技術検定2級試験	JMA技術検定2級試験 実施					
第13回		期末試験	JMA技術検定2級試験 期末試験					
第14回		イメージメイク	最新のトレンドメイク技術を理解し実践する					
第15回		イメージメイク	最新のトレンドメイク技術を理解し実践する					
成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) … 「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。 21.								
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分(加減式or減点式)・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。								
↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①成績判定試験	1位	2位				60	秀(S):100点～90点	
②確認テスト	2位				2位	30	優(A):89点～80点	
③課題レポート						なし	良(B):79点～70点	
④授業態度			2位	1位		10	可(D):69点～60点	
⑤作品						なし	不可(E):59点以下	
⑥プレゼンテーション						なし		
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。						不合格の場合	補修、追試の有無等	

シラバス作成者	日隈 朱梨	シラバス承認者	フルネームを記載	実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voicecat/teacher/
---------	-------	---------	----------	--------	---

更新履歴

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				
改5				

科目名	メイク・ブライダル専攻Ⅰ（専攻授業）		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	メイクに強いスタイリストになる為、イメージメイク、ショーメイク、撮影用メイクを学ぶ							
授業の一般目標	イメージを形にできる能力を身に付けコンテスト、ヘアショーの作品制作に活かす							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	JMAメイク検定2級テキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	フォトコンテストについて		フォトコンテストの概要説明・テーマに沿った作品制作の構成を考える			10月3日		
第2回	フォトコンテストについて		前回の続き・テーマに沿った作品制作の構成を考える			10月10日		
第3回	イメージメイク		宝塚メイクをイメージして実践			10月17日		
第4回	イメージメイク		リクルートメイクをイメージして実践			10月24日		
第5回	撮影メイク		フォトコンテストのメイク・撮影に向けて			11月14日		
第6回	フォトコンテストの撮影日		準備・撮影			11月21日		
第7回	フォトコンテスト写真確認		写真確認・撮影予備日			11月28日		
第8回	検定対策(ポイントメイク基礎)		ポイントクレンジング～ベースメイク、チーク、ローライト、ハイライト			12月5日		
第9回	検定対策(ポイントメイク基礎)		ポイントクレンジング～アイブロー、アイシャドウ、アイライナー			12月12日		
第10回	検定対策(ポイントメイク基礎)		アイライナー復習・ビューラー・マスカラ・リップ			12月19日		
第11回	検定対策		JMA技術検定2級試験 模擬試験			1月16日		
第12回	検定対策		JMA技術検定2級試験 模擬試験			1月23日		
第13回	検定対策		JMA技術検定2級試験 模擬試験			1月30日		
第14回	期末試験		JMA技術検定2級試験 期末試験			2月6日		
第15回	JMA技術検定2級試験		JMA技術検定2級試験 実施			2月13日		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○				20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	石田 美紀			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/ishida/			

2025年度シラバス

科目名		メイク・ブライダル専攻Ⅱ（専攻授業）		学科名 （コース名）		美容科			学年	2学年
授業形態		実習		学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	国家検定	
教育課程区分		必修		単位数	2	時間数	30時間	該当資格名称	美容師国家試験	
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）		当該科目を通して、サロンでのヘアメイク業務に必要な基礎的な技術と、専門的な知識をバランスよく習得します。さらに、実習を通じて実践的なスキルも磨き、サロン内での多様な依頼に対応できる柔軟な技術力を養うことができます。								
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）		ヘアアレンジ、アップスタイル、着付けの技術を実際にサロンワークで活かすための総合的な能力を養います。お客様の要望に応じて、柔軟に対応し、必要な技術を組み合わせて最適なスタイルを提案できる力を身につけます。								
受講条件		美容科に在籍している								
教科書名		JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級					教材名	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級		
設備名・機器名		メイク道具一式					関連サイト	該当なし		
関連前科目		メイクブライダル専攻Ⅰ					関連後科目	該当なし		
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位										
回（コマ）	開講日	授業コマの主題（タイトル）			各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標					使用教科書・教材
第1回	4月15日	イメージメイク実践 （スタイリッシュ+ドレス+ヘアアレンジ）			スタイリッシュメイクのテクニクを取得しモデルとドレスに合ったメイクとヘアアレンジができる					
第2回	4月15日									
第3回	4月15日	ヘアアレンジ（新井会）			新井会サロンスタイル 指導頂くスタイルを時間内に完成させる 方法や手順を理解する					
第4回	4月15日									
第5回	4月22日	エレガントメイク実践 （エレガント+ドレス+ヘアアレンジ）			エレガントメイクのテクニクを取得しモデルとドレスに合ったメイクとヘアアレンジができる					
第6回	4月22日									
第7回	4月22日	ヘアアレンジ（新井会）			新井会サロンスタイル 指導頂くスタイルを時間内に完成させる 方法や手順を理解する					
第8回	4月22日									
第9回	5月13日	フォトコンテストについて （ウエディングドレス）			フォトコンテストの概要説明・テーマに沿った作品制作の構成を考える（近畿地区理美容甲子園フォトコンテスト）					
第10回	5月13日									
第11回	5月13日	ヘアアレンジ（新井会）			新井会サロンスタイル 指導頂くスタイルを時間内に完成させる 方法や手順を理解する					
第12回	5月13日									
第13回	5月20日	フォトコンテストについて			前回の続き・テーマに沿った 作品制作の構成を考える（2回目ドレス選び）					
第14回	5月20日									
第15回	5月20日	振袖			振袖の着付け（肌襦袢・体型補整・長襦袢）					
第16回	5月20日	振袖			振袖の着付け（肌襦袢・体型補整・長襦袢）					
第17回	5月27日	フォトコンテストの撮影日			フォトコンテストのメイク 撮影に向けて					白ドレス画像
第18回	5月27日									
第19回	5月27日	振袖			振袖の着付け（肌襦袢・体型補整・長襦袢・着物の着付け）					
第20回	5月27日									
第21回	6月3日	イメージメイク実践 （キュート）			キュートメイクのテクニクを取得しモデルの骨格に合ったキュートメイクができる					カラードレス画像
第22回	6月3日									
第23回	6月3日	振袖			振袖の着付け（肌襦袢・体型補整・長襦袢・着物の着付け・帯結び）					
第24回	6月3日									
第25回	6月24日	イメージメイク実践 （フレッシュ）			フレッシュメイクのテクニクを取得しモデルの骨格に合ったメイクができる					カラードレス画像
第26回	6月24日									
第27回	6月24日	振袖			振袖の着付け（肌襦袢・体型補整・長襦袢・着物の着付け・帯結び）					
第28回	6月24日									
第29回	7月1日	イメージメイク実践 （エレガント）			エレガントメイクのテクニクを取得しモデルの骨格に合ったメイクができる					
第30回	7月1日									
第31回	7月1日	振袖（確認テスト）			振袖の着付け（試験）					
第32回	7月1日									
第33回	7月8日	イメージメイク実践 （クール）			クールメイクのテクニクを取得しモデルの骨格に合ったメイクができる					
第34回	7月8日									
第35回	7月8日	レーコ美容室			和装ヘアスタイル（年齢別まとめ髪/夜会巻き/シニョンスタイル/日本髪）					連絡済み（4月1日）メール
第36回	7月8日									
第37回	7月15日	メンズメイク・ピーニング・面の強化			新郎のメンズメイクについて（眉毛）ピーニング・面の強化					
第38回	7月15日									
第39回	7月15日	レーコ美容室			和装ヘアスタイル（年齢別まとめ髪/夜会巻き/シニョンスタイル/日本髪）					連絡済み（4月1日）メール

2025年度シラバス

第40回	7月15日	レポート提出	化粧・メイク・ヘア・着付けの基礎/化粧・メイク・ヘア・着付けの応用/化粧・メイク・ヘア・着付けの応用	
第41回	7月22日	イメージメイク実践 (キュート+ドレス+ヘアアレンジ)	キュートメイクのテクニックを取得しモデルとドレスに合ったメイクとヘアアレンジができる	白ドレス画像
第42回	7月22日			
第43回	7月22日	花嫁着付の基礎と準備	花嫁衣裳の種類と特徴(白無垢/色打掛) 着付に必要な道具、小物/長襦袢/補正の仕方/掛下の着付	長谷美容室 /美1 女子モデル
第44回	7月22日		ペアで実践	長谷美容室
第45回	7月29日	イメージメイク実践 (ガーリー+ドレス+ヘアアレンジ)	ガーリーメイクのテクニックを取得しモデルとドレスに合ったメイクとヘアアレンジができる	
第46回	7月29日			
第47回	7月29日	和装着付	花嫁着付と振袖/男性着付の方法や違い	長谷美容室 /美容1 女子男子モデル
第48回	7月29日		ペアで実践 (浴衣の着付)	長谷美容室
第49回	8月5日	ホットカーラ巻き方・タイム取り 面のスタイル作成・浴衣ヘア	ホットカーラの巻き方・ブロッキング (ウィッグ・相モデル)・浴衣のヘアアレンジ法を取得する	
第50回	8月5日			
第51回	8月5日	かつら合わせ	かつらの種類と特徴/かつらの合わせ方・調整の方法	長谷美容室 /美容2 専攻モデル
第52回	8月5日		ペアで実践	
第53回	8月26日	模擬試験	イメージメイク(ウエディングドレスに合わせたメイクとヘアセットを45分間で仕上げ)	
第54回	8月26日			
第55回	8月26日	DEMODE	撮影メイク	OK
第56回	8月26日			
第57回	9月2日	期末試験	イメージメイク(ウエディングドレスに合わせたメイクとヘアセットを45分間で仕上げ)	
第58回	9月2日			
第59回	9月2日	DEMODE	撮影メイク	OK
第60回	9月2日			

成績評価方法 (当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) … 「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。 21.

成績判定試験【配点30%】：実技と理論の試験で、技術や知識の正確さ、手順の理解度を評価します。(減点方式)

小テスト【配点10%】：メイクや着付けの理論に関する理解をテストします。(減点方式)

↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験	2位				1位	30	秀(S)：100点～90点
②小テスト(1回)	2位				1位	10	優(A)：89点～80点
③模擬試験(1回)	2位				1位	20	良(B)：79点～70点
④授業態度			2位	1位		15	可(D)：69点～60点
⑤作品					1位	25	不可(E)：59点以下
⑥プレゼンテーション						なし	
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。						不合格の場合	補修、追試の有無等

シラバス作成者	日隈 朱梨	シラバス承認者	フルネームを記載	授業担当教員	日隈 朱梨
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voicecat/teacher/

更新履歴				
シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				

2025年度シラバス

科目名 ¹		美容実習（コンテスト）		学科名 ² （コース名）		美容科（昼間生）		学年 ³		学年					
授業形態 ⁴		実習		学期		前期		開講年月 ⁵		4月		該当資格区分 ⁶		国家資格	
教育課程区分 ⁷		選択必修		単位数 ⁸		1		時間数 ⁹		15		該当資格名称 ¹⁰			
科目の概要 （全コマ数を俯瞰して）		11美容技術の1つであるワインディング技術を習得し、外部コンテストでも通用する技術レベルを目指す。コンテストのチェック基準に合わせた内容で技術レベルを上げる。													
科目の到達目標 （教育課程の位置づけ）		12国家試験課題の習得を通して、外部コンテストでの入賞を目指し技術の習得を行う													
受講条件		13美容科1年生であること													
教科書名		14美容実習Ⅰ						教材名		15					
設備名・機器名		16						関連サイト		17					
関連前科目		18						関連後科目		19					
20授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位															
回（コマ）	開講日	授業コマの主題（タイトル）				各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材					
第1回	4月14日	コンテストの課題について				1年次は、ワインディング課題でのコンテスト参加を目指す コンテスト参加時期、コンテスト内容など									
第2回	4月21日	外部見学（BESTAR）				美容師の方の技術をまじかで見学をさせて頂き、今後のコンテストの課題を見つける									
第3回	5月12日	上巻きを習得する				オンベースに巻き収め、配列通り仕上げる									
第4回	5月19日	下巻きを習得する				1/2オフベースに収め、配列通りに仕上げる									
第5回	6月2日	フロントサイド（右）を習得する				スライスの取り方、ロッドの収まりを理解し、配列通りに仕上げる									
第6回	6月9日	フロントサイド（左）を習得する				スライスの取り方、ロッドの収まりを理解し、配列通りに仕上げる									
第7回	6月16日	バックサイドを習得する				1/2オフベースに収め、スライスの取り方、ロッドの収まりを理解し、配列通りに仕上げる									
第8回	6月23日	全頭タイム取り				目標のタイム内に入れる（30分以内）									
第9回	6月30日	全頭タイム取り				目標のタイム内に入れる（30分以内）									
第10回	7月7日	外部コンテスト参加				外部コンテストに参加し、入賞を目指す									
第11回	7月14日	全頭タイム取り				今後のコンテスト参加に向け、タイムアップと技術アップを目指す									
第12回	7月28日	全頭タイム取り				今後のコンテスト参加に向け、タイムアップと技術アップを目指す									
第13回	8月4日	全頭タイム取り				今後のコンテスト参加に向け、タイムアップと技術アップを目指す									
第14回	8月25日	全頭タイム取り				今後のコンテスト参加に向け、タイムアップと技術アップを目指す									
第15回	9月1日	全頭タイム取り（期末）				今後のコンテスト参加に向け、タイムアップと技術アップを目指す									
21成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験（出題）の適正化（正規分布）、「レポート」の評価等は別に定める。															
当該科目の到達度を測るための方法、点数、配分、合格基準、等、客観的なデータによる。①筆記試験の場合は、設問数・時間・合格点数を明記すること。②記述式筆記試験の場合は、記述すべきワードの最低要件・回答時間・文字数等と評価点数配分。③実技による判定試験は、判定する項目・点数配分（加点式or減点式）・時間配分なども明記すること。④レポート提出の場合は、別紙「レポート評価の仕方」参照。⑤国家資格・国家検定・民間検定の科目の場合には該当する資格試験の合格基準と試験方法に準ずること。															
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解		思考・判断		関心・意欲		態度		技能・表現		評価配分%		成績評価基準	
①成績判定試験														秀（S）：100点～90点	
②確認テスト														優（A）： 89点～80点	
③課題レポート														良（B）： 79点～70点	
④授業態度														可（D）： 69点～60点	
⑤作品														不可（E）：59点以下	
⑥プレゼンテーション															
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。												不合格の場合		補修、追試の有無等	
シラバス作成者				シラバス承認者				授業担当教員							
								実務経験紹介							
更新履歴															
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所				作成者				Check者（確認者）			
改1															
改2															
改3															

2025年度シラバス

科目名 ¹	サロンワークⅠ		学科名 (コース名) ²	美容科(昼間)			学年	³ I学年
授業形態 ⁴	講義	学期	前期	開講年月 ⁵	4月	該当資格区分 ⁶	国家資格	
教育課程区分 ⁷	選択	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)			¹¹ 美容師としての人間力と感性を育む総合的な学び。 プロとしての心と技を磨くための人間形成プログラム					
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)			¹² 美容師として必要な接遇マナー、社会人基礎力、最新の美容技術やトレンドに対する理解を深め、プロとしての心構えや感性を養い、自らの将来像を明確に描けるようになる。					
受講条件			¹³ 美容科の所属していること					
教科書名 ¹⁴			ビジネスマナー			教材名 ¹⁵		
設備名・機器名 ¹⁶			パソコン等			関連サイト ¹⁷		
関連前科目 ¹⁸						関連後科目 ¹⁹	サロンワークⅡ	
授業計画(授業コマ単位) 学科: 15コマ以上目単位、実習・演習: 30コマ以上/単位 20.								
回(コマ)	開講日	1. 本日の主題(タイ時間)との授業内容および授業コマの到達目標					使用教科書・教材	
第1回	4月15日	接遇マナーを知る	美容師として必要な基本的接遇マナーの重要性を理解し、実践につながる姿勢や言動を身につける基礎を築く。					
第2回	4月22日	今後の目標を設定する	自分自身の価値観や将来のビジョンを見つめ直し、美容師としてのキャリアに対する具体的な目標を言語化し、行動計画の第一歩を踏み出せるようになる。					
第3回	4月28日	最新のスタイルを学ぶ	東京の有名サロンで活動をする美容師の技術や感性、トレンドへの意識を学び、自分の美容師としての視野を広げ、今後の技術習得や表現力向上への意欲を高める。					
第4回	4月28日	美容師としての心構え	美容師として求められる責任感、誠実さ、向上心などの心構えを理解し、お客様や仲間と信頼関係を築くための意識や姿勢を身につける。					
第5回	5月7日	美容の楽しさを先輩(美容師)から学ぶ①	現役美容師の先輩の体験を通じて、美容師という仕事のやりがいや楽しさを実感し、自分自身の将来に対する期待や目標を前向きに描けるようになる。					
第6回	5月7日	美容の楽しさを先輩(美容師)から学ぶ②	先輩美容師のリアルな体験を聞き、仕事に対する熱意や喜びを共感することで、美容師として働くことへの憧れや学ぶ意欲を高める。					
第7回	5月13日	接遇マナーを学ぶ	美容現場で求められる接遇マナーを理解し、基本的な挨拶や言葉遣い、立ち居振る舞いを場面に応じて適切に実践できるようになる。					
第8回	5月13日	接遇マナーを実践する	接遇が与える印象の重要性に気づき、美容師としてお客様に信頼されるためのマナー意識を高める。					
第9回	5月26日	ヘアショーを通して、新しい美容技術を知る	ヘアショーで披露される最新の美容技術や表現方法に触れることで、技術、デザインの幅広さと創造性を理解し、自分の美容師としての表現力や学ぶ意欲を高める。					
第10回	5月26日	ヘアショーを通して、新しい美容技術を知る	ヘアショーを通じて、感性や創造力の大切さを実感し、美容における自己表現の可能性を広げる。					
第11回	5月27日	社会人としての考え方	社会人として求められる責任感、自律性、協調性などの基本的な考え方や行動の意味を理解し、美容師として信頼される社会人になるための意識を身につける。					
第12回	5月27日	社会人としての礼儀	礼儀の基本的な意味と重要性を理解し、美容師として信頼される人間関係を築くために、状況に応じた丁寧な態度や言動を実践できるようになる。					
第13回	6月10日	美容師として	美容業界の現状と将来の可能性について理解を深め、美容師としての多様なキャリアパスや活躍の場を知り、自ら将来像を主体的に描けるようになる。					
第14回	6月17日	ビューティエキスポに参加し、美容の技術や考え方を学ぶ	ヘアショーやセミナーを通して、美容技術の進化や多様な表現方法、美容師としての考え方に触れ、創造力と学び続ける姿勢の重要性を理解する。					
第15回	6月17日	ビューティエキスポに参加し、美容の技術や考え方を学ぶ	最前線の美容技術やデザインの発信に触れることで、自分の感性や表現力を広げ、美容師としての技術習得への意欲を高める。					
第 回								
成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法) … 「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定 ¹ める。								
出席率80%以上であること。 授業内容によって、レポートの提出をさせ、提出状況を評価とし、未提出の場合は減点とする。								
↓判定方法へ 該当する観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	評価基準	
①成績判定試験							秀(S): 100点~90点 優(A): 89点~80点 良(B): 79点~70点 可(D): 69点~60点 不可(E): 59点以下	
②確認テスト								
③課題レポート		3				5		
④授業態度			1	2		95		
⑤作品								
⑥プレゼンテーション 上記の判定方法がどの観点							不合格の場合 補修	
シラバス作成者	小林 昌子	シラバス承認者		授業担当教員				
				実務経験紹介				
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所		作成者	Check者(確認者)		
改1								
改2								
改3								
改4								
改5								

科目名	美容実習(サロンワークⅡ)		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	サロン実務演習							
授業の一般目標	お客様・先輩スタッフから求められる人材になる。サロンフロア業務の全てを把握し、広い視野を持って実践できる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ビジネスマナー 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	社会人としての基本		学生と社会人の違い、コンプライアンス					
責任感・規律性・積極性・協調性								
サロンスタッフとしての身だしなみとファッション(美意識)								
第2回								
第3回								
第4回	美容業の展望		企業理念、企業研究					
第5回			求められる人材、求人					
第6回			求められる人材、求人					
第7回			業務内容とやりがい					
第8回			トレンドを理解する (情報収集)					
第9回	SNS 伝わるDM・POP・お礼状		SNSの活用					
第10回			SNSの活用					
第11回			DMの書き方・効果的なPOPの作り方・お礼状等の書き方					
第12回			DMの書き方・効果的なPOPの作り方・お礼状等の書き方					
第13回	職場の人間関係		チームワークとコミュニケーション					
第14回			スタッフとしての立ち居振る舞い					
第15回	前期授業の振り返り		社会人としての職業意識の振り返り・今後の目標					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	柳原 優志			実務経験紹介				

2025年度シラバス

科目名	サロンワークⅢ		学科名 (コース名)	美容科			学年	2学年
授業形態	講義	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	国家検定	
教育課程区分	選択	単位数	1	時間数	30時間	該当資格名称	美容師国家試験	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	容業界で求められる実践的な技術や知識を身につけるために、SNS活用、就職活動、プロフェッショナルな技術、接客マナーなど、幅広い内容を学びます。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	美容業界で活躍するために必要な専門知識と技術を総合的に学ぶ科目であり、実践的な技能の習得を目指します。現場で求められるスキルを高め、就職後に即戦力として活躍できるようにする。							
受講条件	美容科に在籍している							
教科書名	該当なし				教材名	YICオリジナル教材		
設備名・機器名	該当なし				関連サイト	該当なし		
関連前科目	該当なし				関連後科目	該当なし		
授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回	4月18日	SNSについて	SNSの機能と種類を理解し説明できるようになる。 利点と課題を理解し自分の意見を持ち利用時のマナーやリスク対策を身につける。				YICオリジナル教材	
第2回	4月21日	BESTAR就職フェア①	企業の特徴を理解し、自分に合ったサロン選びをできるようになる。 就職活動の進め方、企業研究の大切さを理解する。				YICオリジナル教材	
第3回	4月21日	BESTAR就職フェア②	様々な商材の体験、ヘアショーを通して美容に対する知識、理解を深める				YICオリジナル教材	
第4回	4月28日	特別セミナー①	プロ現場のヘアメイクから撮影の工程を学ぶ 撮影現場でのヘアメイクと進行手順を理解する				YICオリジナル教材	
第5回	4月28日	特別セミナー②	プロの技術を見て応用力を高められるようにする。 撮影体験を通して表現力と実践力を身につける。				YICオリジナル教材	
第6回	5月12日	就活egg①	サロンリクルートブースでの説明を聞き、理想とする美容師像に合わせたサロン選びが出来る				YICオリジナル教材	
第7回	5月12日	就活egg②	エントリーしたフォトコンテストの作品の結果発表 他校の学生の作品を見学し今後の作品制作に活かす				YICオリジナル教材	
第8回	5月16日	マナー講座	現場で活かせるカウンセリング法を知り実践する お客様のお悩みに合わせた店販品の促進、次回提案が出来るようになる				YICオリジナル教材	
第9回	6月6日	インターンシップ前	言葉遣い、接客用語、お客様との会話に必要な知識を知り、インターンシップ内で活かせる礼儀作法の知識を深める				YICオリジナル教材	
第10回	6月17日	ASIA BEAUTY EXPO①	有名デザイナーによるヘアショーの見学を通してデザインの慣性を磨く				YICオリジナル教材	
第11回	6月17日	ASIA BEAUTY EXPO②	国内外のメーカーの新製品や人気商品の展示を通し就職してからの店販の知識を深める				YICオリジナル教材	
第12回	7月7日	美容週間コンテスト①	競技形式で正確な技術を行える。 時間内に安定した技術で仕上げができ、コンテスト形式に慣れ、実力を発揮できる。				YICオリジナル教材	
第13回	7月7日	美容週間コンテスト②	チームでの連携力と対応力を高められる。 リズムよく素早く作業を進める力を養う。				YICオリジナル教材	
第14回	7月18日	NAVEL様 SNSの活用法について	効果的なSNS運用の基本を理解し発信内容や投稿の工夫について学べる。 自身のブランディングにSNSを活用できる。				YICオリジナル教材	
第15回	7月25日	NAVEL様 SNSの活用法について	ターゲットに届くSNS運用を実践・発信する。 魅力的な投稿でフォロワー増加を目指す。				YICオリジナル教材	
成績評価方法（当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法）…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。 21.								
1. 出席率【評価配分：60%】 該当する観点：知識・理解、思考・判断、関心・意欲、態度 欠席1回につき減点（1回あたり5%） 2. 課題レポート【評価配分：10%】 該当する観点：知識・理解、思考・判断 課題レポートでは、授業で学んだ知識や技術をどのように理解し、実践に活かせるかを評価します。レポートの内容に基づき、知識の深さや考察力を測ります。 3. 授業態度【評価配分：30%】 該当する観点：思考・判断、関心・意欲、態度 授業中の積極的な参加、発言、グループワークの協力態度、実技の取り組み方などを評価します。どれだけ真剣に授業に取り組み、学習意欲を示しているか。積極性や協調性、課題に対する姿勢が評価されます。								
↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準	
①出席率			2位	1位		60	秀（S）：100点～90点	
②課題レポート			2位		1位	10	優（A）：89点～80点	
③授業態度			1位	1位		30	良（B）：79点～70点	
④成績判定試験						なし	可（D）：69点～60点	
⑤作品						なし	不可（E）：59点以下	
⑥プレゼンテーション						なし		
上記の判定方法がどの観点に属するものか、優先順位をつける。上位1位～降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等
シラバス作成者	日隈 朱梨	シラバス承認者	フルネームを記載		授業担当教員	日隈 朱梨		
					実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voicecat/teacher/		
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所			作成者	Checker(確認者)	
改1								
改2								
改3								
改4								
改5								

科目名	インターンシップⅠ			単位数	1	科目コード		
授業形態	研修			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択課目			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実際のサロン勤務を体験(研修)し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。							
授業の一般目標	1. サロン様の実践的経験 2. 職業意識の育成 3. いろいろな人の持つ考え方や行動に触れることにより、学生としてではなく、社会人としてのマナーや責任感を身につけることができる。実践的な経験により、自主的に行動ができる人材を育成する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ネットワークサロン・インターンシップ先の情報収集、特徴を調べ把握する							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	インターンシップガイダンス			インターンシップの意義と目的について概要説明。ビジネスマナーについての確認				
第2回	サロン研究			サロン様の経営方針・教育方針を調べ、自分に合ったサロン様を研究する				
第3回	インターンシップ事前準備			インターンシップ先を決定する。インターンシップ先誓約書記入				
第4回～5回	インターンシップ実習期間①			自宅近隣のネットワークサロンで実務研修				
第6回～7回	インターンシップ実習期間①			受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入			8月下旬(1年)	
第8回～9回	インターンシップ実習期間①			インターン先の情報共有・実務記録の完成・提出 お礼状の発送			8月下旬(1年)	
第10回～11回	インターンシップ実習期間②			興味のあるサロンで実務研修				
第12回～13回	インターンシップ実習期間②			受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入			12月下旬(1年)	
第14回～15回	インターンシップ実習期間②			インターン先の情報共有・実務記録の完成・提出 お礼状の発送				
成績評価方法								
単位認定 実務記録提出								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			100	B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

2025年度シラバス

科目名 ¹	インターンシップⅡ		学科名 (コース名) ²	美容科 (昼間)			学年	³ 2学年
授業形態 ⁴	研修	学期	前期	開講年月 ⁵	6月	該当資格区分 ⁶		
教育課程区分 ⁷	選択	単位数 ⁸	1	時間数 ⁹	30	該当資格名称 ¹⁰		
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	¹¹ 学生が美容業界の現場(美容室、まつ毛エクステンションサロンなど)での実務を体験し、学内での学びを実社会に結びつける。職業理解を深め、即戦力となるための態度、技術、マナーを養う							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	¹² 実際のサロンワーク(接客、清掃、準備、補助業務など)を体験し、現場の流れや役割分担について理解できる。言葉遣いや身だしなみ、挨拶など、サロンで必要とされる基本的な接客マナーを身につけ、顧客やスタッフと円滑にコミュニケーションが取れる。実習中に自らの課題を認識し、振り返りを通して今後の学習目標を明確に出来る。							
受講条件	¹³ 美容科に所属していること							
教科書名				教材名	¹⁵			
設備名・機器名				関連サイト	¹⁷			
関連前科目				関連後科目	¹⁹			
授業計画(授業コマ単位) 学科: 15コマ以上目単位、実習・演習: 30コマ以上/単位 20.								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回		ガイダンス、インターンの目的、心構え、マナー講習	インターンシップの目的を理解できる。 現場で求められる心構えをもてる 社会人、職業人としての基本的態度を理解できる					
第2回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第3回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第4回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第5回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第6回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第7回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第8回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第9回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第10回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第11回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第12回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第13回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第14回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第15回		インターン実習(学外:各サロンにて実習)	各自の目標を立て、達成に向けて学ぶことと、サロン様にご指導頂いたことを実践できる					
第 回		インターンシップの振り返り、お礼状	4日間のインターンシップでの学びと整理、言語化できる 自分の成長と課題を明確に出来る/お礼状の記入					
成績評価方法(当該コマの到達目標に対する評価基準と評価方法)…「筆記試験」における試験(出題)の適正化(正規分布)、「レポート」の評価等は別に定める。 21.								
4日間インターンシップに参加していること。 毎日、レポートを記入していること。								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験								秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点 可(D):69点~60点 不可(E):59点以下
②確認テスト								
③課題レポート				1	2			
④授業態度								
⑤作品								
⑥プレゼンテーション								
上記の判定方法がどの観点到属するものか、優先順位をつける。上位1位~降順。							不合格の場合	補修、追試の有無等
シラバス作成者	小林 昌子	シラバス承認者			授業担当教員			
					実務経験紹介			
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所			作成者	Checker(確認者)	
改1								
改2								
改3								
改4								
改5								

科目名	パーソナルカラーⅠ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。							
授業の一般目標	パーソナルカラリスト検定3級合格(2月受験)							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	色彩学とは		導入					
第2回	四季の自然を表わす色		春／夏／秋／冬に関わる色について					
第3回	日本の色の歴史		特徴的な伝統色					
第4回	色と生活		周りを取り巻く様々な色、衣食住					
第5回	色の種類		赤・橙・黄・緑・青・紫・白黒・グレー系統					
第6回	色の仕組み		物体色と光源色、無彩色と有彩色					
第7回	CUS表色系		カラーアンダーートンシステム					
第8回	色の三属性と対比現象		明度・彩度・色相					
第9回	色の感情効果		明度・彩度・色相に関する心理効果					
第10回	cus配色効果		アンダーートンとは					
第11回	ファッション概論		基本的な配色テクニック					
第12回	ブライダルと色彩		ウエディングと配色調和					
第13回	パーソナルカラー		肌色のしくみ					
第14回	パーソナルカラーの特徴		人の特徴によるアンダーートン パーソナルカラー					
第15回	検定対策		パーソナルカラー 3 級検定試験対策					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	パーソナルカラーⅡ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。							
授業の一般目標	パーソナルカラリスト検定2級合格							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	パーソナルカラリスト検定2級公式テキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	色彩と文化 染料・染色と顔料		天然染料・日本の染料、顔料、合成染料					
第2回	ヨーロッパの色の歴史		古代ギリシャ、ローマ、中世、ルネッサンス、19世紀、20世紀					
第3回	色彩理論 混色		減法混色、加法混色、中間混色、生活の中の混色					
第4回	照明と色		光源の種類と用途、光色と演色性					
第5回	色の知覚効果		光、面積、対比による色の見え方					
第6回	基本的な配色テクニック		色相、色調配色 配色の構成					
第7回	CUS表色系における配色調和とアンダートーン		色調の変化とアンダートーン					
第8回	ファッション概論		トータルコーディネーションの必要性					
第9回	ファッションとイメージワード		ファッションとイメージワード					
第10回	ディスプレイと色彩		ディスプレイの基準					
第11回	インテリアと色彩		インテリアと色彩					
第12回	パーソナルカラーとスタイリング		パステルサマー、ブリリアントウインター、ブライトスプリング、ディープオータムのスタイリング					
第13回	ブライダルと色彩		パステルサマー、ブリリアントウインター、ブライトスプリング、ディープオータムのスタイリング					
第14回	パーソナルシーズンカラー120		人の特徴によるアンダートーン パーソナルカラー					
第15回	検定対策		パーソナルカラー2級検定試験対策					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビューティビジネス		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ビューティーコーディネーターとして、社会人として必要な資質を磨く							
授業の一般目標	ビューティーコーディネーターの知識、スキル、ビューティーコーディネーターの仕事を学ぶ中で、サービス業に従事する者としての心構えを学ぶ。合わせて、希望する企業の内定を獲得する為に、きちんと履歴書を書く・思いの伝わるエントリーシートを書けるようにする。どのような人材が求められているのかを知り、面接でしっかり自己表現ができるようにする。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ビューティコーディネート検定テキスト3級							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ビューティーコーディネーターⅠ ビューティーコーディネーターについて理解する サロンにおけるビジネスキャリア	1. 社会人としての職業意識 2. 美容業界で働くということ 3. 仕事への取り組み方① 4. 仕事への取り組み方② 志向の姿勢を学ぶ ワーク 1分間スピーチ「どのような社会人になりたいか」 グループワーク「愛されるスタッフとはどのようなスタッフか」				5. 顧客		
第2回	ビューティーコーディネーターⅡ ホスピタリティの考え方 ビジネスコミュニケーション	1. ホスピタリティの考え方 2. 言語によらないコミュニケーション 3. サロンスタッフとしての身だしなみを知る 4. 1分間スピーチ「サロンでのおもてなしにはどのような事があるか」						
第3回	インターンシップに向けて	インターンシップに向けてのマナー 挨拶・実習中の諸注意・お礼状の書き方・封筒の書き方を学ぶ						
第4回	接客の基本と電話の受け方・かけ方	1. 印象の良い聴き方と話し方2. 敬語3. 電話の受け方4. 名刺交換						
第5回	ビューティーコーディネーターⅢ サロン内のコミュニケーション	1. スタッフ間の円滑なコミュニケーション 2. 就業中の基本マナー3. 指示の受け方と報告の仕方 4. 報告書の書き方 5. 会議への参加を学ぶ 1分間スピーチ「サロン内で良好なコミュニケーションを築く為にはどのような事が必要か」 グループワーク「チームで報告書作成」						
第6回	ビューティーコーディネーターⅣ ビューティーコーディネーターとは	1. ビューティーコーディネーターの役割と能力・キャリアプラン 2. 生産性を高めるフロアマネジメント グループワーク「生産性を上げる為の試み」を考える						
第7回	ビューティーコーディネーターⅤ 美意識・ファッションコーディネート	1. おしゃれ・トレンドを理解しアドバイスする為に 2. ファッションの歴史						
第8回	サロンのメディア活用	1. 電子メール2. 表とグラフ3. ホームページ4. ビジネス用語						
第9回	応募書類の書き方	履歴書の書き方・添え状の書き方・封筒の書き方 志望動機・自己PRの書き方 面接でよく出る質問を学ぶ						
第10回	自己PR発表会	前の週で作成した自己PRの内容と話し方のチェック						
第11回	お客様に敬意を示せる立ち振る舞い	ウォーキング、物の受け渡し、ジャケットの脱ぎ着等の所作						
第12回	自己プロデュースコラージュ作成	自分を表現するファッション・ヘアメイク表現を考える						
第13回	自分の魅力全身コーディネート発表会①	夏休み前に作成した自己プロデュースプランの発表会						
第14回	自分の魅力全身コーディネート発表会②	夏休み前に作成した自己プロデュースプランの発表会						
第15回	前期試験							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビューティ・コーディネーター			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	専門的な技術・理論を学び就職に役立てる							
授業の一般目標	・表現力を始めとするコミュニケーション能力 ・立ち居振る舞いやマナーといった人間力 ・出会った一瞬で、その人に似合うのかを見極める完成を養うスタイリング能力							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ビューティーコーディネータ検定テキスト2級・検定過去問題集 (注意：2級P88~99, P114~123, P128~147は他の先生がご担当！)							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	オリエンテーション・3級復習と2級説明			授業の進め方・試験説明・3級復習・2級挑戦の目的など				
第2回	サロンオペレーションとチームワーク			信頼されるスタッフとは、チームワークとは				
第3回	サロンオペレーションの向上			CSとES、サロンワークの全体像				
第4回	社内トレーナーに必要な心構えとスキル			ティーチングとコーチングの基本				
第5回	ファッションのスタイル別評価			最近のファッションスタイル・ブランド				
第6回	カウンセリングの基本			相手を思う技術・安心感を与える会話				
第7回	カウンセリングの技術			カウンセリングの手順と注意事項				
第8回	店販ヘアケアコミュニケーション			施述の中での商品説明、説明の組み立て				
第9回	クレーム対応			クレーム対応の基本				
第10回	トータルビューティメニューの知識			メイク、健康情報				
第11回	カラーコーディネーションの基本 等			パーソナルカラー				
第12回	接客対応			店販商品の販促				
第13回	接客対応			店販商品の販促				
第14回	検定問題集			過去問に挑戦・回答解説				
第15回	2級模擬試験・検定注意事項			模擬試験・検定注意事項説明				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	キャリアデザイン			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職活動の為の、キャリアガイダンス 1. 自己分析 2. プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付ける 3. 仕事を知る							
授業の一般目標	1. 自分を知る事で「やりたい事」「できる事」「将来像」を明確にしていく。 2. プレゼンテーション能力を身に付ける。 3. 社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付ける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	キャリアサポート「自己分析」			「過去の振り返り」「自己理解」				
第2回	「幸せの心理学セミナー」			「人生の目的」「幸せの領域」「マズローの5段階欲求説」			講話 グループワーク	
第3回	「幸せの心理学セミナー」			「人間関係」「対人関係」「脳の構造」「コミュニケーション」				
第4回	「幸せの心理学セミナー」			「エゴグラム式パーソナル分析」			講話 レポート提出	
第5回	キャリアサポート「他己分析」			「クラスメイトを知る」「他己理解」				
第6回	キャリアサポート「応募書類について」			履歴書の書き方、自己PR作成				
第7回	キャリアサポート「SMBC講話」			生活設計についての講話				
第8回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「接客の基本」			復習テスト	
第9回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「敬語、クッション言葉」				
第10回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「電話対応、ロールプレイング」			復習テスト	
第11回	キャリアサポート「合同企業説明会について」			企業説明会所作、心構え				
第12回	学内合同企業説明会							
第13回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「電話の取次ぎ、ロールプレイング」			復習テスト	
第14回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「席次、名刺交換」				
第15回	期末 筆記試験			小論文700～1000文字「キャリアデザインの授業で身に付いたこと～就職して成し遂げたいこと」				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 筆記試験 小論文40点満点(40%) 復習テスト・レポート提出(60%)各10点満点								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○					50	S(4):90点以上
小テスト	○						30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート				○			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	コンピュータを利用した事務作業に必要な文書の作成やマナーについて学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。							
授業の一般目標	①コンピュータの基礎を理解し、メールやフォルダの作成ができるようにする。 ②Wordの操作を学習し、ビジネス文書や見栄えの良い文書を作成できるようにする。 ③ビジネス文書やビジネスメールについての構成やマナーを理解する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	Excel 2013 クイックマスター＜基本編＞ Word 2013 クイックマスター＜基本編＞ Power Point 2013 クイックマスター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点		基礎ITの必要性と基礎知識の説明ができる。						
□ 思考・判断の観点		事務作業に必要な各領域についての理解と活用方法を覚える。						
□ 関心・意欲の観点		基礎的なIT技術の関心を広げ、苦手分野を克服しながら課題をこなす。						
□ 態度の観点								
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的なIT知識・技術を修得し、現場に必要な情報処理が行えるようになる。 顧客管理等のパソコン管理が行え、作業効率を上げることができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	授業開始について コンピュータの基本操作とWordの基本		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ログイン、メールアドレス登録、課題提出の仕方 Wordの画面構成と文字入力					
第2回	ビジネス文書の作成		ビジネス文書・メールの基礎知識 ページ設定、文字修飾について					
第3回	文書の作成		挨拶文の挿入、段落番号、インデントやタブについて					
第4回	表の作成		表を挿入し、編集する					
第5回	表の編集		表の体裁を整える					
第6回	表現力アップ		ワードアートや画像などの挿入・編集					
第7回	表現力アップ		図形、テキストボックスの作成・編集					
第8回	ビジュアル文書の作成		SmartArtグラフィック、ページ罫線の挿入・編集					
第9回	長文の作成		ヘッダー・フッター、段組みについて					
第10回	プレゼンテーション資料の基本		画面構成とスライドの作成					
第11回	オブジェクトや表の挿入・編集		画像や図形・図表、表の挿入と編集					
第12回	特殊効果の設定		画面の切り替え効果やアニメーション効果					
第13回	プレゼンテーションと試験範囲		プレゼンテーションについて 試験対策のポイント、確認				試験範囲説明	
第14回	試験実施		試験の実施				単位認定試験	
第15回	試験問題の解答、解説		試験問題の答え合わせと解説				試験解説	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	S(4):100点～90点
小テスト							-	A(3):89点～80点
宿題授業外レポート							-	B(2):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	C(1):69点～60点
発表・作品							-	D:59点未満 未修得
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	プレゼンテーション			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	「仕事の実践」の知識を活かしながら、プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、プレゼンテーションの基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。							
授業の一般目標	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。 プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナルテキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	オリエンテーション			授業のルール・プレゼンテーションとは				
第2回	プレゼンテーションの目的			プレゼンテーションの種類・目的の明確化・情報収集の重要性				
第3回	プレゼンテーション準備と流れ1			聞き手の分析や主張の明確化、プラン作成やツールについて				
第4回	聴衆に好感を持たれる話し方の基本			聴衆に好感を持たれる話し方の基本を学ぶ			小テスト	
第5回	ストーリーの構成			序論・本論・結論について				
第6回	説得力のある伝え方			SDS法・PREP法・DESC法について				
第7回	自己紹介文作成			SDS法・PREP法・DESC法を用いた自己PR文の作成・発表				
第8回	感動を創造する伝え方			感情を込めた伝え方・感動エピソード発表			小テスト	
第9回	プレゼンテーション			テーマに沿ってプレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする				
第10回	事業計画書の作成①			サロンコンセプト・ターゲット層・メニューの作成				
第11回	事業計画書の作成②			チラシ・プレゼン資料作成				
第12回	プレゼンテーション準備			最終準備・発表練習				
第13回	事業計画書に沿ったプレゼンテーション(テスト)			プレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする				
第14回	事業計画書に沿ったプレゼンテーション(テスト)			プレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする				
第15回	期末試験			筆記テスト				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、小テスト10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品					◎		評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス文書力		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設次期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	講義形式・グループワーク・調べ学習・発表を授業で取り入れる 必要に応じて視聴覚教材使用 美しい字を書く事を授業内で実施 適宜課題提出							
授業の一般目標	日常的に美しい字を書けるようになる ビジネスで必要とされる漢字が書けるようになる ビジネスで必要とされる文章が書けるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	1. 接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	1. 日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1回	学習内容を理解して最終目標を立てる 学習の仕方を知り活用する		シラバスを基に学習内容を理解して自己を振り返り得手不得手を知る シラバスを基に学習到達目標を理解して自己目標を立てる					
第2回	ＴＰＯに合わせた言葉選び		桃尻語訳を参考に言葉選びの重要性を知り、自身に起こった出来事を文章にする					
第3回	言葉の正しい使い方		ＴＰＯに合わせた言葉の使い方を知り活用できるようになる					
第4回	文章の創造を楽しむ		キーワードの文節を基に、自身で文章を作成するポイントを活用できるようになる					
第5回	文章を読み取る事を楽しむ		文章の行間を読む楽しさを感じる事ができる					
第6回	要約をする-1		限られた文字数で要約をして、相手に伝わる文章を作成するポイントを活用できるようになる					
第7回	要約をする-2		要約のポイントを活用して印象に残った本・記事・作品などを要約して発表する					
第8回	改まった手紙を書く		時候の挨拶・前文・末文を使用して手紙を書く					
第9回	社外文書の書き方とルールを知る		社外文書の書き方とルールを知り、実際に書けるようになる					
第10回	社外文書の書き方とルールを知り、実際に書けるようになる		社内文書の書き方とルールを知り、実際に書けるようになる					
第11回	電子媒体のビジネス文書 ファックスの送信		電子媒体のビジネス文書のルールとマナーを活用することができる ファックスを送信するときのルールを知り、実際に活用する事ができる					
第12回	郵便物のルール		郵便物のルールを知り活用することができる					
第13回	お礼状を作成する-1		学習した知識を活用してお礼状を実際に作成して郵送する スチューデントサロン・就職活動用					
第14回	お礼状を作成する-2		学習した知識を活用して卒業した高校へお礼状を送る-1					
第15回	お礼状を作成する-3		学習した知識を活用して卒業した高校へお礼状を送る-2					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス英語		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	サロンでの対応について色々な場面で会話を学ぶ。授業は簡単な会話を中心としビューティ分野に必要な表現も併せて学ぶ。							
授業の一般目標	英語でのコミュニケーションができるようになるのが目標。中学1・2年で学ぶ内容をカバーしながら、英語で基本的なやり取りができる力を身につける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	事前テストの実施		英単語、レベルチェック					
第2回	Nice to meet you		自己紹介ができる。 初対面の挨拶ができる。					
第3回	How' re you this morning?		相手の調子を尋ねたり、自分の調子を言うことができる。あいづちを打つことができる。					
第4回	What do you do in your free time?		余暇の過ごし方について尋ねたり、答えたりすることができる。種類を尋ねたり、答えたりすることができる。					
第5回	Where' re you from?		天気的话题をきっかけに見知らぬ人と会話を始めることができる。出身地を尋ねたり、答えたりすることができる。					
第6回	How much is it?		値段を尋ねたり、答えたりすることができる。 数字を正しく言えることができる。					
第7回	May I have your name, please?		受付で約束があることを伝えることができる。 位置を表す表現を使うことができる。					
第8回	Where' s the nearest bookstore?		道を尋ねたり、答えたりすることができる。					
第9回	How was your weekend?		趣味について尋ねたり、答えたりすることができる。					
第10回	Nice talking with you.		自然に会話を終わらせることができる。 色々な別れの挨拶をすることができる。 別れの挨拶に返答することができる。					
第11回	Hou about some paperbacks?		第三者の誕生日や好きなことを尋ねたり、答えたりすることができる。 提案する表現が使える。 月や日付を正しく言えることができる。					
第12回	Do you have a fitness center?		Haveを使って設備やサービスについて質問できる。 序数を使って何階かを伝えることができる。 Inやnext toをつかって場所を伝えることができる。					
第13回	業務内で想定される会話		ビューティ業界に就職し、海外のお客様をお迎えした際想定される会話の実践					
第14回	色々な場面の会話		自分が伝えたい事を英語で伝えられるようになる					
第15回	振り返りテストとECPTテストの実施		期末試験実施					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	イベントプロデュース		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。							
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	ベント活動の意義や運営の仕方を理解し、説明ができる							
☐ 思考・判断の観点	イベントの企画や目的を考え、工夫ができる							
☐ 関心・意欲の観点	ほりかわ祭実行に向け、意欲を高め団結力・協調性を高める							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
イベントの企画から運営を学び、実践し協調性や社会人基礎力を身に着ける事ができる								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	授業ガイダンス		2020年度のイベントについて					
第2回	イベントとは?		イベントの意義について					
第3回	イベントの目的		イベントには、必ず実施する側に明確な「目的」があって、その手段として行える					
第4回	プランニングと運営について		プランニング（計画生）の重要性と運営について覚える					
第5回	イベント企画会議(1)		実際の行事のの企画会議を実施する。（ほりかわ祭）					
第6回	イベント運営のグループワーク(1)		イベント運営とグループワーク（ほりかわ祭）					
第7回	具体的なイベント運営のシミュレーション(1)		運営シュミレーション（ほりかわ祭）					
第8回	イベント運営の実際(1)		ほりかわ祭について（1）					
第9回	イベントプロデュースの分析と展望（1）		ほりかわ祭について（2）					
第10回	イベント企画会議(2)		実際の行事のの企画会議を実施する。（就職egg）					
第11回	イベント運営のグループワーク(2)		イベント運営とグループワーク(就職egg)					
第12回	具体的なイベント運営のシミュレーション(2)		運営シュミレーション(就職egg)を行う					
第13回	イベント運営の実際(2)		就職eggについて（1）					
第14回	イベントプロデュースの分析と展望（2）		就職eggについて					
第15回	まとめ		まとめ					
成績評価方法								
単位認定 60点以上 各イベントの参加状況・運営・実施状況にて総合判断								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	S(4):90点以上
小テスト							-	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							-	B(2):70点以上
授業態度	○		○	◎			30	C(1):60点以上
発表・作品	○	◎	○		◎		40	D:59点未満 未修得
演習							-	
出席			◎	◎			30	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ボランティア活動		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生/2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を講義する。ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。							
授業の一般目標	ボランティアの理念を説明できる。ボランティア活動の基本原則を説明できる。実際のボランティア活動を説明できる。ボランティア活動参加の意義を説明できる。ボランティア活動に参加する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ボランティアの理念	(無償性、自主性、公益性)						
第2回	ボランティア活動の基本原則	自分からすすんで行動する—ともに支え合い—学び合う「見返りを求めないよりよい社会をつくるを学ぶ						
第3回	実際のボランティア活動	実際のボランティア活動について話し合う						
第4回	ボランティア参加の意義	ボランティア活動は、他人同士がいろいろな場でふれあい、つながりを持ち、お互いに学びあって生きる喜びを確かめ合う機会を与えるものであることを確認する						
第5回	自分にあったボランティア活動は?	自分にあったボランティア活動について考察する。						
第6回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第7回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第8回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第9回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第10回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第11回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第12回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第13回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第14回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第15回	振り返り	レポート作成						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(ウェーブⅡ)			単位数	2	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ヘアセッティング (国家試験第2課題)							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベルへの引き上げ 2. 正確な技術の習得 3. 人間性の醸成 4. セッティングやデザインの復元に富んだ長持ちするコームアウトが容易にできるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習1 美容技術理論1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
1・2回	実力確認テスト	一段目はスカルプチュアカール、2段目～6段目はオールウェーブ、7段目はクロッキノールカールの全頭で完成する (1年目の課題スタイル)				タイム計測25分		
3・4回	難点部分の技術強化	実力テストで自分の難点部分を知り、技術と理解を改善する						
5・6回	実力再確認テスト	上記スタイルで、国家試験基準の十分な到達レベルに仕上げる						
7・8回	4段目にリフトカールの作製	リフトカールの定義を知り、技術指導を受け作れるようになる				オールウェーブの中央1/3は作らない状態で準備する		
9・10回	5段目に逆リフトカールの作製	逆リフトカールの定義を知り、技術指導を受ける作れるようになる						
11・12回	リフトカール・逆リフト 難点部分の技術強化と確認テスト	リフトカールと逆リフトを国家試験基準の十分な到達レベルに仕上げる				時計の方向巻きと逆向き方向巻き		
13・14回	6段目にメイボールカールの作製 7段目にクロッキノールカールの作成	メイボールカールとクロッキノールカールの定義を知り、技術指導を受け作れるようになる				オールウェーブの中央1/3は作らない状態で準備する		
15・16回	メイボールカール・クロッキノールカール 点部分の強化と確認テスト	各カールを国家試験基準の十分な到達レベルに仕上げる						
17・18回	全カールの難点部分の技術強化	確認テストでの自分の難点部分を知り、技術と理解を改善する						
19・20回	期末テスト試験課題の作製	期末テストスタイルのデモンストレーションより スタイル構成を知る						
21・22回		技術の条件を理解して課題スタイルを完成させる				タイム計測30分		
23・24回	到達度テスト	合格基準に十分に到達した仕上げを2分前には、仕上げる				タイム計測27分		
25・26回	難点部分の技術強化					タイム計測26分		
27・28回	到達度テスト	23分で仕上げ2分で仕上がり確認をする				タイム計測25分		
29・30回	難点部分の技術強化					タイム計測25分		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(コンテストⅡ)			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	6月・7月・8月・9月にあるコンテスト出場種目の集中練習							
授業の一般目標	出場種目で好成績を残す							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	コンテスト入賞作品を参考にして研究、レベルアップに繋げる							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	1. 美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	1. 日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	S P Cコンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成					日程未定	
第2回	S P Cコンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成					日程未定	
第3回	S P Cコンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成						
第4回	美容週間コンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成					日程未定	
第5回	美容週間コンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成						
第6回	美容週間コンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成					日程未定	
第7回	美容組合コンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成						
第8回	美容組合コンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成					日程未定	
第9回	美容組合コンテストに向けて	出場種目の技術練習・作品作成						
第10回	就活eggフォトコン・JKコンテスト	出場種目の技術練習・作品作成					日程未定	
第11回	就活eggフォトコン・JKコンテスト	出場種目の技術練習・作品作成						
第12回	就活eggフォトコン・JKコンテスト	出場種目の技術練習・作品作成						
第13回	理美容甲子園に向けて	出場種目の技術練習・作品作成						
第14回	理美容甲子園に向けて	出場種目の技術練習・作品作成					日程未定	
第15回	理美容甲子園に向けて	出場種目の技術練習・作品作成					日程未定	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	就職ガイダンス		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	現役美容師の講話を中心に、グループワーク、ディスカッション形式を取り入れた授業							
授業の一般目標	「業界で求められる人材」の考え方を学ぶ。役職によっての具体的な仕事内容・役割・考え方を知る事で業界でのキャリアアップに繋がる。インターンシップの心構えができ、自己の立場と役割、立ち振る舞いが理解できる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	サロン情報収集・特徴把握							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	「ネットワークサロンについて理解する」 「美容業の現状～これから」		ネットワークサロンを知り、インターンシップ・就職先を考える。					
第2回	ネットワークサロン		内容検討			講話・レポート提出		
第3回	ネットワークサロン		内容検討					
第4回	ネットワークサロン		内容検討					
第5回	サロンアシスタントの役割 「仕事内容を理解する」		話を聞く姿勢を養う サロンアシスタントの具体的な仕事内容・取り組みを講話にて知る。			講話・レポート提出		
第6回	サロンスタイリスト「スタイリストになるまでの苦勞・やりがい」 「業界で活躍する為には？」		話を聞く姿勢を養う。売れているスタイリストの方に講話頂く。 グループワークを通してさまざまな考え方を知る。			レポート提出 グループワーク		
第7回	サロンオーナー「これからのサロン作り」 「必要とされる人材とは」		人材育成、教育制度など「業界で活躍できる人材」になる為には					
第8回	ネットワークサロン		内容検討			講話 レポート提出		
第9回	ネットワークサロン		内容検討					
第10回	ネットワークサロン		内容検討			講話 レポート提出		
第11回	ネットワークサロン		内容検討					
第12回	学内合同企業説明会		サロン、企業様を知り、就職先を考える機会にする					
第13回	学内企業説明会 振り返り		自分が話を聞かせて頂いたサロン様情報を発表し全体で共有する 情報交換で複数のサロン様を知る。					
第14回	模擬面接		就職面接で気を付ける事、自分を魅力的に見せる為には			面接練習		
第15回	ネットワークサロン（面接ブース） 就職試験の面接で気を付ける事		就職試験に向けて実践的な「面接」の緊張感を知り、自己表現、表情、言葉遣い、社会人としてのマナーを学ぶ。サロン様のアドバイスを受けて自己改善に努める。			面接シートにて評価 サロン様よりアドバイスを頂く		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				